

新約聖書

キリストの生涯

聖書の中心はイエス・キリストです。では、いったいキリストとはどういうお方で、何をなさり、どんなことをお語りになったのでしょうか。ここには、キリストと行動を共にし、その教えを受け、さまざまな出来事を見聞きした人々の証言を、それぞれ違った観点からまとめた、四つの記録が収められています。四人の著者は、キリストの直弟子もいれば、そうでない者もあり、社会的地位も、取税人、青年、医者、漁師と、全く異なります。この四人の目をとおして、キリストの姿が生き生きと描かれています。

マタイの福音書（取税人マタイの記録）

マタイは、税金を取り立てる役人でした。当時、彼らの中には、不正に多く取り立てて、自分のものにする者がいたので、人々にきらわれ、軽べつされる職業でした。しかし、イエスは、あえてそのような人を弟子になさったのです。イエスに出会ったマタイの生活は一変しました。いっさいを捨てて彼にお従いしたのです。そしてこのイエスこそ、以前から神の預言者によって、この世に現われると言われ続けてきた救い主であることを、人々に伝える者となったのです。

一

- 1 初めに、イエス・キリストの先祖の名前を記すことから始めましょう。イエス・キリストはダビデ王の子孫、さらにさかのぼってアブラハムの子孫です。
- 2 アブラハムはイサクの父、イサクはヤコブの父、ヤコブはユダとその兄弟たちの父です。
- 3 ユダはパレスとザラの父〔彼らの母はタマル〕、パレスはエスロンの父、エスロンはアラムの父です。
- 4 アラムはアミナダブの父、アミナダブはナアソンの父、ナアソンはサルモンの父です。
- 5 サルモンはボアズの父〔母はラハブ〕、ボアズはオベデの父〔母はルツ〕、オベデはエッサイの父です。
- 6 エッサイはダビデ王の父、ダビデはソロモンの父〔母は、もとウリヤの妻〕です。
- 7 ソロモンはレハベアムの父、レハベアムはアビヤの父、アビヤはアサの父です。

- 8 アサはヨサパテの父、ヨサパテはヨラムの父、ヨラムはウジヤの父です。
- 9 ウジヤはヨタムの父、ヨタムはアハズの父、アハズはヒゼキヤの父です。
- 10 ヒゼキヤはマナセの父、マナセはアモンの父、アモンはヨシヤの父です。
- 11 ヨシヤはエコニヤとその兄弟たちの父です〔彼らは、イスラエルの人たちがバビロンに移住していた時に生まれました〕。
- 12 バビロンに移住してからは、エコニヤはサラテルの父、サラテルはゾロバベルの父です。
- 13 ゾロバベルはアビウデの父、アビウデはエリヤキムの父、エリヤキムはアゾルの父です。
- 14 アゾルはサドクの父、サドクはアキムの父、アキムはエリウデの父です。
- 15 エリウデはエレアザルの父、エレアザルはマタンの父、マタンはヤコブの父です。
- 16 そして、ヤコブはヨセフの父です〔このヨセフが、キリストと呼ばれるイエスの母マリヤの夫となった人です〕。
- 17 こういう次第で、アブラハムからダビデ王までが十四代、ダビデ王からバビロン移住までが十四代、バビロン移住からキリストまでが十四代となります。

約束されていた救い主

- 18 イエス・キリストの誕生は次のとおりです。母マリヤはヨセフと婚約していましたが、ところが、結婚する前に、聖霊によってみごもったのです。19婚約者のヨセフは、神の教えを堅く守る人でしたから、婚約を破棄しようと決心しました。しかし、人前にマリヤの恥をさらしたくなかったので、ひそかに縁を切ることにしました。
- 20 ヨセフがこのことで悩んでいた時、御使いが夢に現われて言いました。「ダビデの子孫ヨセフよ。ためらわないで、マリヤと結婚しなさい。マリヤは聖霊様によってみごもったのです。21彼女は男の子を産みます。その子をイエス（救い主）と名づけなさい。この方こそ、ご自分を信じる人々を、罪から救ってくださるからです。22このことはみな、神様が預言者を通して語られた、次のことばが実現するためです。
- 23 『見よ。処女がみごもって、男の子を産む。その子はインマヌエル〔神が私たちと共におられる〕と呼ばれる。』
- 24 目が覚めると、ヨセフは、御使いの命じたとおり、マリヤと結婚しました。25しかし、その子が生まれるまでは、マリヤに触れませんでした。そして、生まれた子をイエスと名づけました。

二

イエスの誕生

- 1 イエスはヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムの町でお生まれになりました。そのころ、天文学者たちが、東の国からはるばるエルサレムへやって来て、こう尋ねました。2「このたびお生まれになったユダヤ人の王様は、どこにおられますか。私たちは、その方の星をはるか東の国で見たので、その方を拝むために参ったのです。」

3 それを聞いたヘロデ大王は、ひどくうろたえ、エルサレム中がその噂でもちきりになりました。 4大王はさっそくユダヤ人の宗教的指導者たちを召集し、「預言者どもは、メシヤ（救い主）がどこで生まれると告げているのか」と尋ねました。

5 彼らは答えました。「ユダヤのベツレヘムです。 預言者ミカがこう書いております。

6 『小さな町ベツレヘムよ。

おまえはユダヤの中でも決して

ただのつまらない町ではない。

おまえから偉大な支配者が出て、

わたしの国民イスラエルを

治めるようになるからだ。』

7 それでヘロデは、ひそかに天文学者たちを呼びにやり、例の星が初めて現われた正確な時刻を聞き出しました。 8そして彼らに、「さあ、ベツレヘムへ行って、その子を探すがいい。 見つかったら、必ず知らせしてくれ。 わしも、ぜひその方を拝みに行きたいから」と命じました。

9 彼らがさっそく出発すると、なんと、あの星がまた現われて、彼らをベツレヘムに案内し、とある家の上にとどまったではありませんか。 10それを見た彼らは、躍り上がって喜びました。

11 その家に入ると、幼子と母マリヤがおられました。 彼らはひれ伏して、その幼子を探みました。 そして、宝の箱を開け、金と乳香（香料の一種）と没薬（天然ゴムの樹脂で、古代の貴重な防腐剤）を贈り物としてささげました。 12それから、ヘロデ大王に報告するためにエルサレムへは戻らず、そのまま、自分たちの国へ帰って行きました。 神が夢の中で、ほかの道を通って帰るように警告されたからです。

13 彼らが帰ったあと、主の使いが夢でヨセフに現われて言いました。「起きなさい。 幼子とその母を連れて、エジプトに逃げるのです。 そして、帰れと言うまで、ずっとそこにいなさい。 ヘロデがこの子を殺そうとしています。」 14ヨセフは、マリヤと幼子を連れて、その夜のうちにエジプトへ旅立ちました。 15そして、ヘロデ大王が死ぬまで、そこに住んでいました。 こうして、「わたしは、わたしの子をエジプトから呼び出した」という預言者のことばが実現することになったのです。

16 ヘロデは、天文学者たちにだまされたとわかると、怒り狂い、すぐさま、ベツレヘムに兵隊をやって、町とその近辺に住む二歳以下の男の子を一人残らず殺せ、と命じました。 というのは、学者たちが、その星は二年前に現われたと言っていたからです。 17ヘロデのこの残忍な行為によって、エレミヤの次の預言が実現しました。

18 「ラマから声が聞こえる。

苦しみの叫びと、大きな泣き声が。

ラケルが子供たちのために泣いている。

だれも彼女を慰めることができない。

子供たちは死んでしまったのだから。」

19 ヘロデが死ぬと、エジプトに住むヨセフの夢に主の使いが現われ、 20 「さあ、子供とその母を連れてイスラエルに帰りなさい。子供を殺そうとしていた者たちは死んだから」と言いました。

21 そこでヨセフは、イエスとマリヤを連れて、すぐイスラエルに帰りました。 22 ところが途中で、新しい王はヘロデの息子アケラオだと聞いてこわくなりました。するともう一度、夢で、ユダヤ地方に行くなと警告されたので、ガリラヤに行き、 23 ナザレという町に住みつきました。こうして、預言者がメシヤのことを、「彼はナザレ人と呼ばれる」と語ったとおりになったのです。

三

バプテスマのヨハネ

1 ヨセフ一家がナザレに住んでいたころ、バプテスマのヨハネがユダヤの荒野で教えを宣べ伝え始めました。彼の訴えることは、いつも同じでした。 2 「悔い改めて、神様に立ち返れ。天国が近づいたからだ。」 3 このバプテスマのヨハネの働きについては、数百年前、すでに、預言者イザヤが語っています。

「荒野から叫ぶ声が聞こえる。

『主のための道を準備せよ。

主が通られる道をまっすぐにせよ。』」

4 ヨハネはらくだの毛で織った服に皮の帯をしめ、いなごとはち蜜を常食にしていました。 5 このヨハネの教えを聞こうと、エルサレムやヨルダン川流域だけでなく、ユダヤの全地方から、人々が荒野に押しかけました。 6 神にそむく生活を送っていたことを全面的に認め、それを言い表わした人たちに、ヨハネはヨルダン川でバプテスマ（洗礼）を授けました。

7 ところが、パリサイ人（特におきてを守ることに熱心なユダヤ教の一派）やサドカイ人（神殿を牛耳っていた祭司階級。ユダヤ教の主流派）が大ぜい、バプテスマを受けに来たのを見て、ヨハネは彼らをきびしくしかりつけました。「まむしの子らめっ！だれがおまえらに、もうすぐ来る神のさばきから逃れられると言ったのか。 8 バプテスマを受ける前に、悔い改めにふさわしい行ないをせよ。 9 『自分はユダヤ人だから、アブラハムの子孫だから大丈夫』などとは思ってもみるな。そんなことは何の役にも立たない。神様はこんな石ころからでも、今すぐアブラハムの子孫をお造りになれるのだ。

10 今の今でも、神様はさばきの斧をふり上げ、実のならない木を切り倒そうと待ちかまえておられる。そんな木はすぐにも切り倒され、燃やされるのだ。

11 私は今、罪を悔い改める者たちに水でバプテスマを授けている。しかし、まもなく、私など比べものにもならない、はるかに偉大な方がおいでになる。その方のしもべとなる値打さえ、私にはない。その方は、聖霊と火でバプテスマをお授けになる。 12 刈

り入れの時が来たら、麦ともみがらをふるい分け、麦は倉に納め、もみがらは永久に消えない火で焼きすててしまわれる。」

イエス、バプテスマを受ける

13 そのころイエスは、ガリラヤからヨルダン川へ来て、ヨハネからバプテスマ（洗礼）を受けようとなさいました。 14ところが、ヨハネはそうさせまいとして言いました。

「とんでもない。 私こそ、あなた様からバプテスマを受けなければなりませんのに。」

15 しかしイエスが、「今はそうさせてもらいたい。 なすべきことは、すべてしなければならないのですから」とお答えになり、ヨハネからバプテスマをお受けになりました。

16 イエスが、バプテスマを受けて水から上がって来られると、突然天が開け、イエスは、神の御霊が鳩のようにご自分の上にお下りになるのをごらんになりました。 17その時、天から声が聞こえました。「これこそ、わたしの愛する子。 わたしは彼を心から喜んでいる。」

四

イエス、悪魔に試される

1 それからイエスは、聖霊に導かれて荒野にお出かけになりました。悪魔に試されるためでした。 2イエスはそこで、まる四十日間、何一つ口にされなかったので、空腹を覚えられました。 3その時です、悪魔が誘いかけてきたのは。「どうだい。 ひつつ、ここに転がっている石をパンに変えてみたら？ そうすりゃあ、あんたが神の子だということも一目瞭然だろうが。」

4 しかしイエスは、お答えになりました。「それは違う。 聖書（旧約）には、『人はただパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる』と書いてある。 わたしたちは、神のすべてのことばに従うべきなのです。」

5 それから悪魔は、イエスをエルサレムに連れて行き、神殿の一番高い所に立たせて言いました。 6「さあ、ここから飛び降りてみろ。 そうすりゃあ、あんたが神の子だということがわかるだろうよ。 聖書（旧約）に、『神は、御使いを送って、あなたを支えさせ、あなたが岩の上に落ちて碎かれることのないように守られる』と、はっきり書いてあるんだから。」

7 イエスは言い返されました。「『あなたの神である主を試してはならない』とも書いてあるではないですか。」

8 次に悪魔は、非常に高い山の頂上にイエスを連れて行きました。そして、世界の国々とその繁栄ぶりを見せ、 9「さあさあ、ひざまずいて、このおれ様を拝みさえすりゃあ、これを全部あんたにやるよ」とそそのかしました。

10 「立ち去れ、サタン！ 『神である主だけを礼拝し、主にだけ従え』と聖書（旧約）に書いてあるではないか。」イエスは悪魔を一喝なさいました。

11 すると、悪魔は退散し、御使いたちが来て、イエスに仕えました。

イエス、教え始める

12 イエスは、ヨハネが捕らえられたと聞くと、ユダヤを去って、ガリラヤのナザレにお帰りになり、13まもなく、ゼブルンとナフタリに近い、ガリラヤ湖畔のカペナウムに移られました。14これは、イザヤの預言が実現するためでした。

1516「ゼブルンとナフタリの地、海沿いの道、
ヨルダン川の向こう岸、
多くの外国人が住んでいる北ガリラヤ。
そこで暗やみの中にうずくまっていた人たちは、
大きな光を見た。

死の陰の地に座っていた彼らの上に、
光が差した。」

17 その時から、イエスは教えを宣べ伝え始められました。「悔い改めて神に立ち返りなさい。天国が近づいているから。」

18 ある日、イエスが、ガリラヤ湖の岸辺を歩いておられると、シモン〔別名ペテロ〕とアンデレの二人の兄弟が舟に乗り、網で漁をしているのに出会いました。彼らは漁師でした。

19 イエスが、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう」と声をおかけになると、20二人はすぐに網を捨て、イエスについて行きました。

21 しばらく行ったところで、今度は別の二人の兄弟ヤコブとヨハネが、父のゼベダイといっしょに、舟の中で網を修繕しているのを見つけ、そこでも、ついて来るようにと声をおかけになりました。22彼らはすぐ仕事をやめ、父をあとに残して、イエスについて行きました。

23 イエスはガリラヤ中を旅して、ユダヤ人の会堂で教え、あらゆる場所で、天国についてのすばらしい知らせを宣べ伝え、さらに、あらゆる種類の病気や病弱を治されました。

24このイエスの奇蹟の評判は、ガリラヤの外にまで広がったので、シリアのような遠方からも、人々は病人を連れてやって来ました。その病気や痛みがどのようなものであろうと、悪霊に取りつかれた人であれ、てんかんの人であれ、中風の人であれ、一人残らず治るのです。25こうして、イエスがどこに行かれても、たいへんな数の群衆があとについて行きました。それは、ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤのあらゆる所から来た人々で、中にはヨルダン川の向こうから来た人もいました。

五

山上の教え

12ある日、大ぜいの人が集まって来たので、イエスは弟子たちを連れて山に登り、そこに腰をおろして、彼らにお教えになりました。

3「心の貧しさを知る謙そんな人は幸福です。天国はそういう人に与えられるからです。4悲しみ嘆いている人は幸福です。そういう人は慰められるからです。5柔和で高ぶらない人は幸福です。全世界はそういう人のものになるからです。

6 神の前に、正しく良い者になりたいと心から願っている人は幸福です。 そういう人の願いは完全になんかえられるからです。 7 親切であわれみ深い人は幸福です。 そういう人はあわれみを受けるからです。 8 心のきよい人は幸福です。 そういう人は親しく神とお会いできるからです。 9 平和をつくり出そうとしている人は幸福です。 そういう人は神の子供と呼ばれるからです。 10 正しい者だということで迫害されている人は幸福です。 天国はそういう人のものだからです。

11 わたしの弟子だというので、悪口を言われたり、迫害されたり、ありもしないことを言いふらされたりしたら、なんとすばらしいことでしょう。 12 喜びなさい。 躍り上がって喜びなさい。 天国では、目を見張るようなごほうびが待っているからです。 昔の預言者たちも、そのように迫害されたことを思い出さない。

13 あなたがたは、世の塩です。 もしあなたがたが塩けをなくしてしまったら、この世はどうなるでしょう。 あなたがたも、無用のものとして外に捨てられ、人々に踏みつけられてしまうのです。 14 あなたがたは世の光です。 丘の上にある町は、夜になると灯がともり、だれにもよく見えるようになります。 15 16 あなたがたの光を隠してはいけません。 すべての人のために輝かせなさい。 だれにも見えるように、あなたがたの良い行ないを輝かせなさい。 そうすれば、人々がそれを見て、天におられるあなたがたの父を、ほめたたえるようになるのです。

17 誤解してはいけません。 わたしは、モーセの法律や預言者の教え（旧約聖書）を無効にするために来たのではありません。 かえって、それを完成させ、ことごとく実現させるために来たのです。 18 よく言うておきますが、聖書（旧約）にあるどんなおきても、その目的が完全に果たされるまで、無効になることはありません。 19 ですから、どんな小さいおきてでも、破ったり、また人にも破るように教えたりする人は、天国で最も小さい者となります。 しかし、神のおきてを教え、また自分でもそれを実行する人は、天国で偉大な者となります。

20 よく聞きなさい。 パリサイ人や、ユダヤ人の指導者たちは、神のおきてを守っているのは自分たちだと言いはります。 だが、いいですか。 彼ら以上に正しくなければ、あなたがたは天国には入れません。

21 モーセの法律では、『人を殺した者は、死刑に処す』とあります。 22 しかし、わたしはさらにこうつけ加えましょう。 人に腹を立てるなら、たとえ相手が自分の家族であつても、裁判にかけられます。 友達をばか呼ばわりするなら裁判所に引っぱり出されます。 友達をのろったりするなら、地獄の火に投げ込まれます。

23 ですから、神殿の祭壇に供え物をしようとしている時、何か友達に恨まれていることを思い出したら、 24 供え物はそのままにして、相手に会ってあやまり、仲直りすることです。 神に供え物をするのはそのあとにしない。 25 あなたを告訴する人と、一刻も早く和解しなさい。 裁判所に引っぱって行かれてからでは、間に合いません。 そうなったら、あなたは留置場に放り込まれ、 26 最後の一文を払い終えるまで、出て来

られないでしょう。

27 モーセの法律では、『姦淫してはならない』とあります。 28しかし、わたしは言いましょ。 だれでも、みだらな思いで女性を見るなら、それだけでもう、心の中では姦淫したことになるのです。 29ですから、もしあなたの目が情欲を引き起こすなら、その目を〔それが良いほうの目であっても〕えぐり出して捨てなさい。 体の一部を失っても、体全体が地獄に投げ込まれるより、よっぽどましです。 30また、もしあなたの手が罪を犯させるなら、〔たといきき腕であっても〕そんな手は切り捨てなさい。 地獄に落ちるより、そのほうがどんなにましでしょう。

31 また、モーセの法律では、『離縁状を手渡すだけで、妻を離縁できる』とあります。

32しかし、わたしは言いましょ。 だれでも、不倫以外の理由で妻を離縁するなら、その婦人が再婚した場合、彼女にも、彼女と結婚する相手にも姦淫の罪を犯させることになるのです。

33 さらに、モーセの法律では、『いったん神に立てた誓いは、破ってはならない。 どんなことがあっても、みな実行しなければならない』とあります。 34しかし、わたしは言いましょ。 どんな誓いも立ててはいけません。 たとい『天にかけて』と言っても、神に誓うのと同じです。 天は神の王座だからです。 35『地にかけて』と言ってもいけません。 地は神の足台だからです。 また『エルサレムにかけて』と言ってもいけません。 エルサレムは大王である神の都だからです。 36『私の頭にかけて』と言ってもいけません。 あなたがたは髪の毛一本さえ白くも黒くもできないからです。 37ただ『はい、そうします』とか、『いいえ、そうしません』とだけ言いなさい。 それで十分です。 誓いを立てることで約束を信じてもらおうとするのは、悪いことです。

38 モーセの法律では、『人の目をえぐり出した者は、自分の目もえぐり出される。 人の歯を折った者は、自分の歯も折られる』とあります。 39しかし、わたしはあえて言いましょ。 暴力に暴力で手向かってはいけません。 もし右の頬をなぐられたら、左の頬も向けてやりなさい。 40借金のかたに下着を取り上げようとする人には、上着もやりなさい。 41荷物を一キロ先まで運べと命令されたら、二キロ先まで運んでやりなさい。 42何か下さいと頼む人には与え、借りに来た人を手ぶらで追い返さないようにしなさい。

43 『隣人を愛し、敵を憎め』とは、よく言われることです。 44しかし、わたしは言いましょ。 敵を愛し、迫害する人のために祈りなさい。 45それこそ、天の父の子供であるあなたがたに、ふさわしいことです。 天の父は、悪人にも善人にも太陽の光を注ぎ、正しい人にも正しくない人にもわけ隔てなく雨を降らせてくださいます。 46自分を愛してくれる人だけを愛したからといって、取り立てて自慢できるでしょうか。 ならず者でも、そのくらいのことはしています。 47気の合う友達とだけ親しくしたところで、ほかの人とどこが違うと言えるでしょう。 神を信じない人でも、そのくらいのことはします。 48ですから、あなたがたは、天の父が完全であるように、完全でありな

さい。

六

1 人にほめられようと、人前で善行を見せびらかさないようにしなさい。 そんなことをすれば、天の父からごほうびをいただけません。 2 貧しい人にお金や物を恵む時には、偽善者たちのように、そのことを大声で宣伝してはいけません。 彼らは、人目につくように、会堂や街頭で鳴り物入りで慈善行為をします。 いいですか、よく言っておきますが、そういう人たちは、もうそれで、ごほうびはもらったのです。 3 ですから、人に親切にする時は、右手が何をしているか左手でさえ気づかないくらいに、こっそりとしなさい。 4 そうすれば、隠れたことはどんな小さなことでもご存じの天の父から、必ずごほうびがいただけます。

神様に聞かれる祈り

5 ここで、祈りについて注意しておきましょう。 人の見ている大通りや会堂で、さも信心深そうに祈って見せる偽善者のように祈ってはいけません。 よく言っておきますが、そういう人たちは、もうそれで、賞賛を受けてしまったのです。 6 祈る時には、一人で部屋に閉じこもり、父なる神に祈りなさい。 隠れたことはどんな小さなことでもご存じのあなたの父から、必ずごほうびがいただけます。

7 ほんとうの神を知らない人たちのように、同じ文句をくどくど唱えてはいけません。 彼らは、同じ文句をくり返しさえすれば、祈りが聞かれると思っているのです。 8 いいですか。 父なる神は、あなたがたに何が必要かを、あなたがたが祈る前からすでに、ご存じなのです。

9 ですから、こう祈りなさい。

『天におられるお父様。

あなたのきよい御名があがめられますように。

10 あなたの御国がいま来ますように。

天の御国でと同じように、この地上でも、

あなたのみこころが行なわれますように。

11 私たちに必要な日々の食物を、今日もお与えください。

12 私たちの罪をお赦してください。

私たちも、私たちに罪を犯す者を赦しました。

13 私たちを誘惑に会わせないように守り、
悪い者から救い出してください。アーメン。』

14 もしあなたがたが、自分に対して罪を犯した人を赦すなら、天の父も、あなたがたを赦してくださいます。 15 しかし、あなたがたが赦さないなら、天の父も、あなたがたを赦してくださいません。

16 次に、断食についてですが、神のことだけに心を集中したくて断食をする時は、偽善者たちのような、人目につくやり方は避けなさい。 彼らは、やつれた顔をわざと見せつ

け、同情を買おうとします。よく言っておきますが、そういう人たちは、もうそれで、賞賛を受けてしまったのです。 17 断食をする時は、むしろ晴着をまといなさい。 18 そうすれば、だれもあなたが断食をしているとは気づかないでしょう。しかし、あなたの父は、どんなことでもご存じです。そして、報いてくださるのです。

19 財産を、この地上にたくわえてはいけません。地上では、損なわれたり、盗まれたりするからです。 20 財産は天にたくわえなさい。そこでは、価値を失うこともないし、盗まれる心配もありません。 21 あなたの持ち物が天にあるなら、あなたの心もまた天にあるのです。

22 目が澄みきっているなら、あなたのたましいも輝いているはずですが。 23 しかし、目が、悪い考えや欲望でくもっているなら、あなたのたましいは暗やみの中にいるのです。その暗やみのなんと深いことか！

24 だれも、神とお金の両方に仕えることはできません。必ず、どちらか一方を憎んで、他方を愛するからです。

25 ですから、食べ物や飲み物、着物のことで心配してはいけません。今、現に生きている、そのことのほうが、何を食べ、何を着るかということより、ずっと大事です。 26 空の鳥を見なさい。食べ物の心配をしていますか。種をまいたり、刈り取ったり、倉庫にため込んだりしていますか。そんなことをしなくても、天の父は鳥を養っておられるでしょう。まして、あなたがたは天の父にとって鳥よりはるかに価値があるのです。 27 だいたい、どんなに心配したところで、自分のいのちを一瞬でも延ばすことができますか。

28 また、なぜ着物の心配をするのですか。野に咲いているゆりの花を見なさい。着物の心配などしていないでしょう。 29 それなのに、栄華をきわめたソロモンでさえ、この花ほど美しくは着飾っていませんでした。 30 今日は咲いていても、明日は枯れてしまう草花でさえ、神はこれほど心にかけてくださるのです。だとしたら、あなたがたのことは、なおさらよくしてくださるでしょう。ああ、全く信仰の薄い人たち。

31 ですから、食べ物や着物のことは、何も心配しなくていいのです。 32 ほんとうの神を信じない人たちのまねをしてはいけません。彼らは、このような物がたくさんあることを鼻にかけ、そうした物に心を奪われています。しかし、天の父は、それらがあなたがたに必要なことは、よくご存じです。 33 神を第一とし、神が望まれるとおりの生活をしなさい。そうすれば、必要なものは、神が与えてくださいます。

34 明日のことを心配するのはやめなさい。神は明日のことも心にかけてくださるのですから、一日一日を力いっぱい生き抜きなさい。

七

1 人のあら捜しはいけません。自分もそうされないためです。 2 なぜなら、あなたがたが接するのと同じ態度で、相手も接してくるからです。 3 自分の目に材木を入れたままで、どうして人の目にある、おがくずほどの小さなごみを気にするのですか。 4 材

木が目をふさいで、自分がよく見えないというのに、どうして、『目にごみが入ってるよ。取ってあげよう』などと言うのですか。 5 偽善者よ。 まず自分の目から材木を取り除きなさい。 そうすれば、はっきり見えるようになって、人を助けることができます。

6 聖なるものを犬に与えてはいけません。 真珠を豚にやっけてはいけません。 豚は真珠を踏みつけ、向き直って、あなたがたに突っかかって来るでしょう。

7 求めなさい。 そうすれば与えられます。 捜しなさい。 そうすれば見つかります。 戸をたたきなさい。 そうすれば開けてもらえます。 8 求める人はだれでも与えられ、捜す人はだれでも見つけ出します。 戸をたたきさえすれば開けてもらえるのです。 9 パンをねだる子供に、石ころを与える父親がいるでしょうか。 10 『魚が食べたい』と言う子供に、毒蛇を与える父親がいるでしょうか。 いるわけがありません。 11 罪深いあなたがたでさえ、自分の子供には良い物をやりたいと思うのです。 だったらなおのこと、あなたがたの天の父が、求める者に良い物を下さらないことがあるでしょうか。

12 人からしてほしいと思うことを、そのとおりに、人にもしてあげなさい。 これがモーセの法律の要約です。

天国への道は狭い

13 狭い門を通らなければ、天国に入れません。 人を滅びに導く道は広く、大ぜいの人とその楽な道を進み、広い門から入って行きます。 14 しかし、いのちに至る門は小さく、その道は狭いので、ほんのわずかな人しか見つけることができません。

15 偽教師たちに気をつけなさい。 彼らは羊の毛皮をかぶった狼だから、あなたがたを、ずたずたに引き裂いてしまうでしょう。 16 彼らの行ないを見て、正体を見抜きなさい。 ちょうど、木を見分けるように。 実を見れば、何の木かはっきりわかります。 ぶどうといばら、いちじくとあざみとを見まちがえることなど、ありえません。 17 食べてみれば、どんな木かすぐにわかります。 18 おいしい実をつける木が、まずい実をつけるはずはないし、まずい実をつける木が、おいしい実をつけるはずもありません。 19 まずい実しかつけない木は、結局は切り倒され、焼き捨てられてしまいます。 20 木でも人でも、それを見分けるには、どんな実を結ぶかを見ればよいのです。

21 信心深そうな口をきく人がみな、ほんとうにそうだとは限りません。 そういう人たちは、わたしに向かって『主よ、主よ』と言うでしょう。 けれども天国に入れるわけではありません。 天におられるわたしの父のみこころに従うかどうかが決め手です。 22 最後の審判の時、大ぜいの人と弁解するでしょう。 『主よ、主よ。 私たちは熱心に伝道しました。 あなたのお名前を使って悪霊を追い出し、すばらしい奇蹟を何度も行なったじゃありませんか。』 23 しかし、わたしはこう宣告します。 『あなたがたのことは知らない。 ここから出て行きなさい！ あなたがたがしたのは悪いことばかりではありませんか。』

24 わたしの教えを聞いて、そのとおりに忠実に実行する人はみな、堅い岩の上に家を建てる賢い人に似ています。 25 大雨が降り、大水が押し寄せ、大風が吹きつけても、そ

の家はびくともしません。土台がしっかりしているからです。

26 反対に、わたしの教えを聞いても、それを無視する人は、砂の上に家を建てる愚かな人に似ています。27大雨、大水、大風が襲いかかると、その家はあとかたもなく、こわれてしまうからです。」28群衆は、イエスの教えに目をみはりました。29どんなユダヤ人の指導者たちとも違い、特別な権威をもってお語りになっていたからです。

八

イエス、病気を治す

1 イエスが山を下られると、大ぜいの群衆がついて来ました。

2 その時です。らい病人が一人、イエスに駆け寄り、足下にひれ伏しました。「先生。お願いですから、私を治してください。お気持ちひとつで、おできになるのですから。」

3 イエスはその男にさわり、「そうしてあげましょう。さあ、よくなりなさい」と言われました。するとたちまち、らい病はあとかたもなくきれいに治ってしまいました。

4 「さあ、道草を食わないで、まっすぐ祭司のところに行き、体を調べてもらいなさい。モーセの法律にあるとおり、らい病が治った時のささげ物をしなさい。完全に治ったことを人々の前で証明するのですよ。」

56 イエスが、カペナウムの町に入られると、ローマ軍の隊長がやって来て、「先生。うちの若い召使が体の麻痺で苦しんでおります。とてもひどく、起き上がることもできません。どうか治してやってください。お願いします」としきりに頼みます。

7 「わかりました。では、行って治してあげましょう」とイエスは承知なさいました。

8 ところが、隊長の返事はこうでした。「先生。私には、あなた様を家にお迎えするだけの資格はありません。わざわざご足労いただくかなくても、ただこの場で、『治れ』と言ってくださるだけでけっこうです。そうすれば、召使は必ず治ります。9と申しますのは、私も上官に仕える身ですが、その私の下にも部下が大ぜいおります。その一人に私が『行け』と言えば行きますし、『来い』と言えば来ます。また奴隷に『あれをやれ。これをやれ』と命じると、そのとおりにします。私にさえそんな権威があるのですから、先生の権威で、病気に『出て行け』とお命じになれば、必ず治るはずです。」

10 イエスはたいへん驚き、群衆のほうをふり向いて言われました。「これほど信仰深い人は、イスラエル中でも見たことがありません。11いいですか、皆さん。やがて、この人のような外国人が大ぜい、世界中からやって来て、天国で、アブラハム、イサク、ヤコブといっしょに席に着くでしょう。12ところが、天国はもともとイスラエル人のために準備されたのに、たくさんの人が入りそこねて、外の暗やみに放り出され、泣きわめき、もだえ苦しむことになるのです。」

13 それから、ローマ軍の隊長に、「さあ、家に帰りなさい。あなたの信じたとおりのことが起こっています」と言われました。ちょうどその時刻でした。召使の病気が治ったのは。

14 イエスがペテロの家に行かれると、ペテロのしゅうとめが、高熱でうなされていきました。15ところが、イエスはその手におさわりになると、たちまち熱がひき、彼女は起き出して、みんなの食事の仕たくを始めたではありませんか。

16 その夕方のことです。悪霊に取りつかれた人たちが、イエスのところに連れて来られました。イエスが、ただひと言お命じになると、たちまち悪霊どもは逃げ出し、病人はみな治りました。17こうして、イエスについてイザヤが、「彼は、私たちの病弱を身に引き受け、私たちの病気を背負った」と預言したとおりになったのです。

イエス、嵐を静める

18 イエスは、自分を取り巻く群衆の数がだんだんふくれ上がっていくのに気づき、湖を渡る舟の手配を弟子たちにお命じになりました。

19 ちょうどその時、ユダヤ教の教師の一人が、「先生。あなた様がどこへ行かれようと、ついてまいります」と申し出ました。

20 しかし、イエスは言われました。「きつねにも穴があり、鳥にも巣があります。しかし、メシヤ（救い主）のわたしには自分の家はおろか、横になる所也没有ありません。」

21 また、ある弟子は、「先生。ごいっしょするのは、父の葬式を出してからにしたいのですが」と言いました。

22 けれどもイエスは、「いや、今いっしょに来なさい。死人のことは、あとに残った者たちに任せておけばいいのです」とお答えになりました。

23 それから、イエスと弟子たちの一行は舟に乗り込み、湖を渡り始めました。24すると突然、激しい嵐になりました。舟は今にも、山のような大波にのまれそうです。ところが、イエスはぐっすり眠っておられます。

25 弟子たちはあわてて、イエスを揺り起こし、「主よ。お助けください。沈みそうです」と叫びました。

26 ところがイエスは、「なんということでしょう！ それでも神を信じているのですか。そんなにこわがったりして」と答えられると、ゆっくり立ち上がり、風と波をおしかりになりました。するとどうでしょう。嵐はびたりとやみ、大なぎになったではありませんか。27弟子たちは恐ろしさのあまり、その場に座り込み、「いやはや、なんというお方だろう。風や湖までが従うとはなあ！」と、ささやき合いました。

28 やがて、舟は湖の向こう岸に着きました。ガダラ人の住む地方です。と、そこに、二人の男がやって来ました。実はこの二人は悪霊に取りつかれ、墓場をねぐらにしている人たちでした。何をされるか分かったものではないので、だれもそのあたりに近寄りませんでした。

29 二人は、イエスに大声でわめき立てました。「やいやい、おれたちをどうしようってんだい。確かに、お前さんは神の子さ。だがな、今はまだ、おれたちを苦しめる権利はないはずだぜ。」

30 さて、ずっと向こうのほうでは、豚の群れが放し飼いになっていました。31そ

ここで悪霊どもは、「もし、おれたちを追い出すんだったら、あの豚の群れの中に入れてくれ」と頼みました。

32 イエスは、「よし、出て行け」とお命じになり、悪霊どもは男たちから出て、豚の中に入りました。そのとたん、群れはまっしぐらに走りだし、湖めがけていっせいに、がけを駆け降り、おぼれ死んでしまいました。33びっくりした豚飼いたちが、近くの町に逃げ込み、事の一部始終をふれ回ると、34それこそ町中の人がかぞって押しかけ、これ以上迷惑をかけてもらいたくないから、ここを立ち去ってくれと、イエスに頼みました。

九

医者が必要なのは？

1 それで、イエスは舟に乗り込み、自分の町カペナウムに帰られました。

2 そうこうするうち、数人の人が、中風の男を運んで来ました。それも、身動きできない病人なので、床に寝かせたまま。必ず治していただけると信じていたからです。イエスはこの人たちの信仰を見て、病人に、「さあ、元気を出しなさい。わたしがあなたの罪を赦したのですから」と言われました。

3 「なんて罰あたりなことばだ！まるで、自分が神だと言っているようなもんじゃないか。」ユダヤ教の指導者のある者は、腹の中が煮えくり返る思いでした。

4 イエスは、彼らの心中を見抜いて、「なぜそんな悪いことを考えているのですか。56この人に『あなたの罪が赦されました』と言うのと、『起きて歩きなさい』と言うのと、どちらがやさしいですか。さあ、わたしに地上で罪を赦す権威があることを証明してみましょう」と言い、向き直って、中風の男に命令なさいました。「さあ、起きて、床をたたみ、家に帰りなさい。もう治ったのですから。」

7 すると男はとび起き、家に帰って行きました。

8 この有様を目のあたりにした群衆は、恐ろしさのあまり、震え上がりました。そして、このような権威を人間にお与えになった神を、ただただ、ほめたたえるばかりでした。

9 イエスはそこを去り、道を進んで行かれました。途中、マタイという取税人が税金取立所に座っていたので、「来なさい。わたしの弟子になりなさい」と声をおかけになると、マタイはすぐ立ち上がり、あとについて来ました。

10 そのあと、イエスと弟子たちは、マタイの家で夕食をなさることになり、取税人仲間や名うての詐欺師たちも大ぜい招かれました。

11 これを見たパリサイ人たちはかんかんになり、弟子たちに、「あんたがたの先生は、どうしてあんなひどい連中とつき合うんだい」と食ってかかりました。

12 「健康な人には医者はいりません。医者が必要なのは病人です。」イエスはこうお答えになり、13さらにことばを続けられました。「聖書(旧約)に『わたしが喜ぶのは、いけにえやささげ物ではなく、あなたがたがあわれみ深くなることである』とあります。このほんとうの意味を、もう一度学んでください。わたしは、自分を正しいと信じてい

る人たちのためにではなく、罪人を神に立ち返らせるために来たのです。」

14 ある日、バプテスマのヨハネの弟子たちがイエスのところに来て、尋ねました。「なぜ、先生のお弟子さんたちは、私たちやパリサイ人のようには断食しないのですか。」

15 するとイエスは、こうお話しになりました。「花婿の友達、花婿がいっしょにいる間は、嘆き悲しんだり食事をしなかつたりするのでしょうか。しかし、やがて花婿のわたしが、彼らから引き離される日が来ます。その時こそ断食するでしょう。」

16 水洗いしていない布で、古い着物に継ぎ当てをする人がいるのでしょうか。そんなことをしたら、当て布は縮んで着物を破り、穴はもっと大きくなるでしょう。17 また、新しいぶどう酒を貯蔵するのに、古い皮袋を使う人がいるのでしょうか。そんなことをしたら、古い皮袋は新しいぶどう酒の圧力で張り裂け、ぶどう酒はこぼれ、どちらも台なしになってしまいます。新しいぶどう酒を貯蔵するには、新しい皮袋を使います。そうすれば両方とも、もつのです。」

18 このように話しておられると、町の会堂管理人が駆け込んで来ました。そしてイエスの前にひれ伏し、「先生。うちの娘がたったいま息を引き取りました。まだ幼いのに……。お願いします。あの子を生き返らせてください。ちょっと来て、さわっていただければいいのですから」と訴えました。

19 そこでイエスと弟子たちは、彼の家へ向かわれました。20 その途中、十二年間も出血の止まらない病気で苦しんでいた一人の女が、人ごみにまぎれて、うしろからイエスの着物のふさにさわりました。21 「このお方にさわれば、きっと治る」と思ったからです。

22 イエスはふり向き、女に声をおかけになりました。「さあ、勇気を出しなさい。あなたの信仰があなたを治したのですよ。」この瞬間から、女はすっかりよくなりました。

23 さて、管理人の家に着くと、人々でごった返し、葬式の音楽が聞こえてきます。24 そこでイエスは、「さあ、この人たちを外に出しなさい。娘さんは死んではいません。ただ眠っているだけなのですから」とお命じになりました。それを聞くと、みんなはイエスをばかにし、あざ笑いました。

25 人々がみな出て行くと、イエスは少女の寝ている部屋にお入りになり、その手をお取りになりました。するとどうでしょう。少女はすぐに起き上がり、もとどおり元気になったではありませんか。26 すばらしい奇蹟です！ このうわさは、たちまち辺り一円に広まりました。

27 イエスが少女の家をあとにされると、二人の盲人が、「ダビデ王の子よ！ あわれな私たちをお助けください」と叫びながらついて来ました。

28 そしてついに、イエスが泊まっておられる家にまで入り込んで来ました。イエスが「わたしがほんとうに目を開けることができると思いますか」とお尋ねになると、彼らは、「はい、もちろんです」と答えました。

29 そこでイエスは、二人の目におさわりになり、「あなたがたの信じておりになりな

さい」と言われました。

30 すると、彼らの目が見えるようになったのです！ 「このことをだれにも話してはいけませんよ」と、イエスはきびしくお命じになりましたが、 31 それでも、彼らは、イエスのことを町中にふれ回りました。

32 この人たちと入れ替わりに、悪霊に取りつかれてものが言えなくなった男が、連れて来られました。 33 イエスが悪霊を追い出されると、その人はすぐに口をきき始めたので、みんなは驚きあきれ、「こんなこと、今まで見たことがあるかい」と大声で言い合いました。

34 しかし、パリサイ人たちは、「あいつは、悪霊の王ベルゼブル（サタン）に取りつかれているんだ。それで悪霊どもを簡単に追い出せるのさ」と言いはりました。

助けを求める人は多い

35 イエスは、その地方の町や村をくまなく巡回され、ユダヤ人の会堂で教え、御国についてのすばらしい知らせをお伝えになりました。また、行く先々で、あらゆる病人を治されました。 36 このように、ご自分のところにやって来る群衆をごらんになると、イエスの心は、深く痛みました。 彼らは、かかえている問題が非常に大きいのに、どうしたらよいか、どこへ助けを求めたらよいか、まるでわからないのです。 ちょうど、羊飼いのいない羊のように。

37 イエスは弟子たちに言われました。 「収穫はたくさんあるのに、働く人があまりにも少ないのです。 38 ですから、収穫の主である神に祈りなさい。 刈り入れの場にもっと多くの働き手を送ってくださるようお願いのです。」

一〇

1 イエスは、十二人の弟子たちをそばに呼び寄せられ、彼らに、汚れた霊を追い出し、あらゆる病氣、病弱を治す権威をお与えになりました。

2 - 4 その十二人の名前は次のとおりです。

シモン [別名ペテロ]、

アンデレ [ペテロの兄弟]、

ヤコブ [ゼベダイの息子]、

ヨハネ [ヤコブの兄弟]、

ピリポ、

バルトロマイ、

トマス、

マタイ [取税人]、

ヤコブ [アルパヨの息子]、

タダイ、

シモン [「熱心党」という急進派グループのメンバー]、

イスカリオテのユダ [後にイエスを裏切った男]。

伝道の心がまえ

5 イエスは、次のような指示をお与えになり、弟子たちを派遣なさいました。「外国人やサマリア人のところに行ってははいけません。6 イスラエル人のところにだけ行きなさい。この人たちは神のおりから迷い出た羊です。7 彼らのところに行って、『天国は近づいた』と伝えなさい。8 病人を治し、死人を生き返らせ、らい病人を治し、悪霊を追い出さなさい。ただで受けたのだから、ただで与えなさい。

9 お金は、たとわずかでも、持って行ってはいけません。10 旅行袋に、着替えの服や、くつ、それに杖も。そういうものは、あなたがたが助けてあげる人たちから、世話してもらいなさい。それが当然のことです。11 どんな町や村に入っても、神を敬う人を見つけ、次の町へ行くまで、その家に泊まりなさい。12 泊めてもらう時は、心から頼み、その家の祝福を祈りなさい。13 もし、神を敬う家庭なら、その家は必ず祝福されるし、そうでなければ、祝福されないでしょう。14 あなたがたを受け入れない町や家があったら、そこを立ち去る時、足からその場所のちりを払い落としなさい。15 よく言っておきますが、さばきの日には、あの邪悪なソドムとゴモラの町のほうが、その町よりまだ罰が軽いのです。

16 いいですか。あなたがたを派遣するのは、いわば、羊を狼の群れの中へ送るようなものです。ですから、用心深さの点では蛇のように、純真さの点では鳩のようになりなさい。17 気をつけなさい。あなたがたは捕らえられて、裁判にかけられ、会堂でむち打たれるからです。18 わたしのために、総督や王たちの前で取り調べられることもあります。その時こそ、わたしのことを彼らに知らせ、さらに世間の人々に証言するチャンスです。

19 逮捕されたら、取り調べの際、どう釈明しようかなどと心配してはいけません。その時その時に適切なことばが語れるからです。20 釈明するのは、あなたがたではありません。あなたがたの天の父の御霊が、あなたがたの口を通して語ってくださるのです。

21 兄弟が兄弟を裏切って殺し、親も子を裏切るようになります。そして子は親に反抗し、親を殺します。22 わたしの弟子だというので、あなたがたはすべての人に憎まれます。けれども、最後までじっと耐え忍ぶ者はみな救われるのです。

23 一つの町で迫害されたら、次の町に逃げなさい。あなたがたがイスラエルの町を全部めぐり終えないうちに、わたしは戻って来るからです。24 生徒は先生より偉くはなく、使用人は主人より上ではありません。25 生徒は先生と運命を共にし、使用人は主人と運命を共にします。主人のわたしが、ベルゼブル（サタン）と呼ばれるくらいなのだから、ましてあなたがたは、どんなひどいことを言われるか……。26 しかし、脅迫する者たちを恐れてはいけません。やがてほんとうのことが明らかになり、彼らがひそかに巡らした陰謀は、すべての人に知れ渡るからです。

27 わたしが今、暗やみで語ることを、夜明けになったら、大声でふれ回りなさい。わたしがあなたがたの耳にささやいたことを、屋上から言い広めなさい。

28 体だけは殺せても、たましいには指一本ふれることもできないような人々を、恐れてはいけません。 たましいも体も地獄に落とすことのできる神だけを恐れなさい。 29 たった一羽の雀〔二羽で五十円にしかない雀〕でさえ、あなたがたの天の父が知らないうちに、地に落ちることはありません。 30 あなたがたの髪の毛さえ一本残らず数えられています。 31 ですから、心配しなくてもいいのです。 あなたがたは、神にとって、雀などより、ずっと大切なものではありませんか。

32 もしあなたがたが、だれの前でも、『私はイエスの友達だ』と認めるなら、わたしも、天の父の前で、あなたがたをわたしの友だとはっきり認めましょう。 33 しかし、もし人々の前で、『イエスなんか知るもんか』と言うなら、わたしもまた、天の父の前で、あなたがたを知らないとはっきり言ひましょう。

34 わたしが来たのは、地上を平和にするためだ、などと誤解してはいけません。 平和ではなく、むしろ争いを引き起こすために来たのです。 35 そうです。 息子を父親に、娘を母親に、嫁をしゅうとめに逆らわせるためです。 36 家族の者さえ最悪の敵となる場合があるのです。 37 わたし以上に父や母を愛する者は、わたしを信じる者にふさわしくありません。 また、わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしを信じる者にふさわしくありません。 38 さらに、自分の十字架を背負ってわたしに従って来ない者は、わたしを信じる者にふさわしくありません。

39 自分のいのちを一生懸命守ろうとする者は、それを失いますが、わたしのためにいのちを投げ出す者は、ほんとうの意味でそれを自分のものとしします。

40 あなたがたを受け入れる人は、わたしを受け入れるのです。 わたしを受け入れる人は、わたしをお遣わしになった神を受け入れていることとなります。 41 もし預言者を、神から遣わされた預言者だというので受け入れるなら、預言者と同じごほうびを受けられるでしょう。 また、神を敬う正しい人たちを、彼らが神を敬うというので受け入れるなら、彼らと同じごほうびを受けます。

42 また、この小さい者のひとりに、わたしに代わって冷たい水一杯でも与えるなら、よく言っておきますが、その人は必ずごほうびを受けます。」

――

1 イエスは、十二人の弟子たちに、このような指示を与えると、ご自分も教えを宣べ伝えるために、彼らが行くことになっていた町々へお出かけになりました。

ヨハネとイエスの違い

2 さて、そのころ牢獄にいたバプテスマのヨハネは、キリストがさまざまな奇蹟を行なっておられることを聞きました。 そこで、弟子たちをイエスのもとに送り、 3 「あなた様は、ほんとうに、私たちの待ち続けてきたお方ですか。 それとも、まだ別の方を待たなければならないのでしょうか」と尋ねさせました。

4 イエスは答えて言われました。 「ヨハネのところに帰り、わたしの行なっている奇蹟について、見たままを話してあげなさい。 5 盲人は見えるようになり、足の立たなか

った者が今は自分で歩けるようになり、らい病人が治り、耳の聞こえなかった人も聞こえ、死人が生き返り、そして、貧しい人々がわたしのすばらしい知らせを聞いていることなどを。 6それから、こう伝えるのです。 『わたしを疑わない人は幸福です。』

7 ヨハネの弟子たちが帰ってしまうと、イエスは群衆に、ヨハネのことを話し始められました。「あなたがたはヨハネに会おうと荒野へ出かけて行った時、彼をどんな人物だと考えていましたか。 風にそよぐ葦のような人だとでも思っていたのですか。 8それとも、宮殿に住む王子のように、きらびやかに着飾った人に会えるとでも思ったのですか。 9あるいは、神の預言者に会えると期待していたのですか。 そのとおり、彼は預言者です。 いや、それ以上の者です。 10彼こそ、聖書（旧約）の中で、『見よ。 わたしはあなたより先に使者を送る。 その使者は、人々にあなたを迎え入れる準備をさせる』と言われている、その人です。

11 よく言うておきます。 今までに生まれた人の中で、バプテスマのヨハネほどすぐれた働きをした人物はいません。 しかし、天国で一番小さい者でも、ヨハネよりはずっと偉大なのです。 12ヨハネが教えを宣べ伝え、バプテスマ（洗礼）を授け始めてから現在まで、大ぜいの熱心な人々が、天国を目指して押し寄せました。 13すべての律法と預言者（旧約聖書）とは、メシヤ（救い主）を待ち望んできたからです。 そして、ヨハネが現われました。 14ですから、わたしの言うことを喜んで理解しようとする人なら、ヨハネこそ、天国が来る前に現われると言われていた、あの預言者、エリヤだとわかるでしょう。 15さあ、聞く耳のある人は、聞きなさい。

16 あなたがたイスラエル人のことを、何と云えばいいでしょう。 まるで小さな子供のようです。 あなたがたは友達同士で遊びながら、こう責めているのです。 17『結婚式ごっこをして遊ぼうって言ったのに、ちっともうれしがってくれなかったよ。 だから葬式ごっこにしたのに、今度は悲しがってくれないじゃないか。』 18つまり、バプテスマのヨハネが酒も飲まず、また何度も断食していると、『やつは気が変になっている』とけなし、 19メシヤのわたしが、ごちそうを食べていると、『大食いの大酒飲み、最もたちの悪い罪人の仲間だ』とののしります。 もっとも、賢いあなたがたのことですから、うまくつじつまを合わせるでしょうが、知恵が正しいかどうかは、行ないによって証明されるのです。」

わたしのところに来なさい

20 それからイエスは、多くの奇蹟を目のあたりに見ながら、それでも、神に立ち返ろうとしなかった町々をお責めになりました。

21 「ああ、コラジンよ。 ああ、ベツサイダよ。 わたしが、あなたがたの街頭で行なったような奇蹟を、あの邪悪な町ツロヤシドンで見せたなら、そこの人々は、とうの昔に、恥じ入り、へりくだって悔い改めていたでしょうに。 22いいですか、さばきの日には、ツロとシドン（悪行のため、神に滅ぼされた町の名）のほうが、あなたがたより、まだましなものとするのです。 23ああ、カペナウムよ。 大きな名譽を受けたあな

たも、地獄にまで突き落とされるのです。 あなたのところでしたすばらしい奇蹟を、もしあのソドム（悪行のため、神に滅ぼされた町の名）で見せたなら、ソドムは滅ぼされずにすんだでしょうに。 24 いいですか、さばきの日には、ソドムのほうがあなたより、まだましなものとされるのです。」

25 そして、こう祈られました。「ああ、天地の主である父よ。自分を賢いとうめばれる者たちには、あなたの真理を隠し、それを小さな子供たちに示してくださって、ありがとうございます。 26 父よ。これが、お心になかったことでした。

27 あなたは、すべてのことを、わたしに任せてくださいました。わたしを知っておられるのは、父であるあなただけですし、あなたを知っているのは、子であるわたしと、わたしが教える人たちだけです。 28 重いくびきを負って働かされ、疲れはてている人たちよ。さあ、わたしのところに来なさい。あなたがたを休ませてあげましょう。 29 わたしはやさしく、謙そんな者ですから、それこそ負いやすいわたしのくびきを、わたしといっしょに負って、わたしの教えを受けなさい。そうすれば、あなたがたのたましいは安らかになります。 30 わたしが与えるのは、軽い荷物だけだからです。」

一二

安息日をも支配するイエス

1 そのころのことです。イエスは弟子たちといっしょに、麦畑の中を歩いておられました。ちょうど、ユダヤの礼拝日にあたる安息日でしたが、お腹がすいた弟子たちは、麦の穂を摘み取って食べ始めました。

2 ところが、それを見た、あるパリサイ人たちが抗議しました。「お弟子さんたちが、おきてを破ってますよ。安息日に刈り入れをするなど、もってのほかだ。」

3 しかし、イエスは言われました。「ダビデ王とその家来たちが空腹になった時、どんなことをしたか、聖書（旧約）で読んだことがないのですか。 4 ダビデ王は神殿に入り、祭司しか食べられない供え物のパンを、みんなで食べたではないですか。王でさえ、おきてを破ったわけです。 5 また、神殿で奉仕をする祭司は、安息日に働いてもよい、と聖書に書いてあるのを、読んだことがないのですか。 6 ことわっておきますが、このわたしは、神殿よりもずっと偉大なのです。 7 もしあなたがたが、『わたしは供え物を受けるより、あなたがたにあわれみ深くなってほしいのです』という聖書のことばをよく理解していたら、罪もない人たちを、とがめたりはしなかったはずです。 8 安息日といえども、天から来たわたしの支配下にあるのですから。」

9 このあとで、イエスは会堂にお入りになりました。 10 ふとごらんになると、そこに、片手の不自由な男がいます。これ幸いとばかり、パリサイ人たちは、「安息日に病気を治してやっても、おきてに違反しないでしょうか」と尋ねました。それは、イエスがきっと「さしつかえない」と答えるだろうから、そうしたら逮捕しよう、という計略でした。 11 ところが、イエスの答えは違いました。「あなたがたが、羊を一匹飼っていたとします。ところが、その羊が安息日に井戸に落ちてしまった。さあ、どうします

か。もちろん、すぐに助けてあげるでしょう。 12 人間の値打は、羊などとは、比べものになりません。 だから、安息日に良いことをするのは、正しいことなのです。」 13 それからイエスは、片手の不自由な男に、「手を伸ばしなさい」と言われ、彼がそのとおりにすると、手はすっかりよくなりました。

14 そこでパリサイ人たちは、どうにかしてイエスを逮捕し死刑にしようと、集まって陰謀を巡らしました。 15 しかし、それに気づいたイエスは、いち早く会堂を抜け出されました。すると、大ぜいの人がついて来たので、その中の病人をみな治されました。

16 そして彼らに、この奇蹟のうわさを言い広めないようにと、くれぐれも注意なさいました。 17 こうして、イザヤの預言のとおりになったのです。

18 「わたしのしもべを見よ。

彼こそわたしの選んだ者。

わたしが喜ぶ、わたしの愛する者。

わたしは彼の上にわたしの霊を置き、

彼は国々をさばく。

19 彼は争わず、

叫ぶことも大声をあげることもない。

20 弱い者を踏み倒さず、

どんな小さな望みの火も消さない。

彼は最後の勝利を飾り、

あらゆる争いに終止符を打つ。

21 彼の名こそ、全世界の希望となる。」

22 その時、悪霊に取りつかれて、目も見えず、口もきけない人が連れて来られたので、イエスは彼の目を開け、口もきけるようになさいました。 23 これを見た人々は驚き、「やっぱり、この人がメシヤ（救い主）ではないだろうか」と言い合いました。

24 しかし、このことを耳にしたパリサイ人たちは、「イエスが悪霊を追い出せるのは、自分が悪霊の王ベルゼブル（サタン）だからさ」とうそぶきました。

25 イエスは彼らの考えを見抜き、こう言われました。「内紛の絶えない国は、結局滅びます。町でも、家庭でも、分裂しては長続きしません。 26 もしサタンがサタンを追い出すなら、自分で自分と戦い、自分の国を破壊することになるのです。 27 わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出していると言うが、あなたがたの仲間も、悪霊を追い出しているではありませんか。彼らは、いったい何の力で追い出しているのですか。あなたがたの非難があたっているかどうか、彼らに答えてもらいましょう。 28 ところで、もしわたしが神の霊によって悪霊を追い出しているとしたら、どうでしょう。神の国はもう、あなたがたのところに来ているのです。 29 強い者の家に押し入って、物を盗み出すには、まず、その強い者を縛り上げなければなりません。悪霊も同じことです。まずサタンを縛り上げなければ、悪霊を追い出せるわけがありません。 30 わたしに味

方しない者はだれでもみな、わたしの敵なのです。

3132 だから、あなたがたに言うておきます。 どんなにわたしを悪く言おうと、またどんな罪を犯そうと、神は赦してくださいます。 ただ一つ、聖霊を汚すことだけは例外です。 この罪ばかりは、いつの世でも絶対に赦されることはありません。

33 木の良し悪しは、実で見分けます。 良い品種は良い実をつけ、劣った品種は悪い実をつけるものです。 34 ああ、まむしの子らよ。 あなたがたのような悪者の口から、どうして正しい、良いことばが出てくるでしょう。 人の心の思いが、そのまま口から出てくるのですから。 35 良い人のことばを聞けば、その人の心の中にすばらしい宝がたくわえられていることがわかります。 しかし、悪い人の心の中は悪意でいっぱいです。

36 言うておきますが、やがてさばきの日には、あなたがたは今まで口にしたむだ口を、一つ一つ釈明しなければならぬのです。 37 いま口にすることばしだいで、あなたがたの将来は決まります。 自分のことばによって、正しい者と認められるか、あるいは有罪を宣告されるか、そのどちらかになるのです。」

証拠を求める人々

38 ある日、ユダヤ人の指導者とパリサイ人のうちの何人かがやって来て、ほんとうにメシヤ（救い主）なら、その証拠に奇蹟を見せてほしいと頼みました。

39 しかしイエスは、お答えになりました。「悪と不信の時代に生きる人々だけが、証拠を要求するのです。 けれども、預言者ヨナに起こったこと以外は、何の証拠も与えられません。 40 つまり、ヨナが三日三晩大きな魚の腹の中で過ごしたように、メシヤのわたしも、三日三晩、地の中で過ごすからです。 41 さばきの日には、あのニネベの人々が、あなたがたをきびしく罰する側に立つでしょう。 ニネベの人々はヨナの教えを聞いて、それまでの墮落した生活を悔い改め、神に立ち返ったからです。 ところが、今ここに、ヨナとは比べものにならないほど偉大な者が立っているのに、あなたがたはその人を信じようとしません。 42 シェバの女王でさえ、あなたがたをきびしく罰する側に回るでしょう。 彼女は、ソロモンから知恵のことばを聞こうと、あれほど遠い国から旅して来ることも、いとわなかったからです。 ここに、そのソロモンより、もっと偉大な者がいるのに、あなたがたは信じようとしません。

43 この邪悪な時代に生きる人たちは、ちょうど悪霊に取りつかれた人のようです。 せっかく、その人から悪霊が出て行っても、しばらくの間、悪霊は別の住みかを求めて荒野をあちこち歩き回るだけです。 結局、適当な場所が見つからないので、 44 『もとの家に帰ろう』と帰ってみると、その人の心はきれいに片づけてあり、しかも空っぽです。 45 そこで、しめたとばかり、もっとたちの悪い七つの霊を連れ込んで、住みついてしまうというわけです。 こうなると、その人の状態は以前より、はるかに悲惨なものとなります。」

46 イエスが人々のひしめき合う家の中で話しておられた時、母と弟たちがやって来ました。 イエスと話がしたかったからです。 47 だれかが、「先生。 お母様と弟さんた

ちがお見えですよ」と知らせると、48 イエスは、みんなを見回して、「わたしの母や兄弟とは、いったいだれのことですか」と言われました。49 そして弟子たちを指さし、「ごらんなさい。この人たちこそわたしの母であり兄弟です。50 天におられるわたしの父に従う人はだれでも、わたしの母であり、兄弟であり、姉妹なのです」と言われました。

一三

天国のたとえ話

1 その日のうちに、イエスは家を出て、湖の岸辺に降りて行かれました。23 ところがそこも、またたく間に群衆でいっぱいになったので、小舟に乗り込み、舟の上から、岸辺に座っている群衆に、多くのたとえを使って教えを語られました。

「農夫が畑で種まきをしていました。4 まいているうちに、ある種が道ばたに落ちました。すると、鳥が来て、食べてしまいました。5 また、土の浅い石地に落ちた種もありました。それはすぐに芽を出したのですが、6 土が浅すぎて、十分根を張ることができません。やがて日が照りつけると枯れてしまいました。7 ほかに、いばらの中に落ちた種もありましたが、いばらが茂って、結局、生長できませんでした。8 しかし、中には、耕された良い地に落ちた種もありました。そして、まいた種の三十倍、六十倍、いや百倍もの実を結びました。9 聞く耳のある人はよく聞きなさい。」

10 その時、弟子たちが近寄って来て、尋ねました。「どうして、人々にはいつも、このようなたとえでお話しになるのですか。」

11 「あなたがたには天国を理解することが許されていますが、ほかの人たちはそうではないからです。」イエスはこうお答えになり、12 さらに続けて説明なさいました。

「つまり、持っている者はますます多くの物を持つようになり、持たない者はわずかな持ち物さえ取り上げられてしまいます。13 だから、たとえを使って話すのです。彼らは、いくら見ても聞いても、少しも理解しようとしません。」

14 こうして、イザヤの預言のとおりになりました。

『彼らは、聞くには聞くが理解しない。

見るには見るが認めない。

15 その心は肥えて鈍くなり、

その耳は遠く、その目は閉じられている。

彼らは見もせず、聞きもせず、理解もせず、

神に立ち返って、わたしにいやされることがない。』

16 しかし、あなたがたの目は見ているから幸いです。また、あなたがたの耳は聞いているから幸いです。17 よく言っておきますが、多くの預言者や神を敬う人たちが、今あなたがたの見聞きしていることを、見たい、聞きたいと、どんなに願ったことでしょう。しかし、残念ながらできなかつたのです。

18 さて、さっきの種まきのたとえ話を説明しましょう。19 最初の道ばたというの

は、踏み固められた堅い土のことで、御国についてのすばらしい知らせを耳にしながら、それを理解しようとしなない人の心を表わしています。　こういう人だと、悪魔がさっそくやって来て、その心から、まかれた種を奪い取っていくのです。　20次に、土が浅く、石ころの多い地というのは、教えを聞いた当座は大喜びで受け入れる人の心を表わしています。　21ところが、その人の生活には深みがないので、このすばらしい教えも、心の中に深く根をおろすことができません。　ですから、しばらくして信仰上の問題が起こったり、迫害が始まったりすると、熱がさめ、いとも簡単に落後してしまうのです。　22また、いばらの生い茂った地というのは、神のことばを聞いても、生活の苦労や金銭欲などがそれをふさいでしまい、しだいに神から離れていく人のことです。　23最後に、良い地というのは、神のことばに耳を傾け、それを理解する人の心のことです。　このような人こそ、出かけて行って、三十倍、六十倍、いや百倍もの人を天国に連れて来ることができるのです。」

24　イエスは、別のたとえ話もなさいました。　「天国は、自分の畑に良い種をまく農夫のようなものです。　25ところがある晩、農夫が眠っているうちに敵が来て、麦の中に毒麦の種をまいていきました。　26麦が育つと、毒麦もいっしょに伸びだしたではありませんか。

27　使用人は主人のところに駆けつけ、このことを報告しました。『だんな様、大変でございます！　極上の種をまいた畑が、なんと毒麦でいっぱいになっています。』

28　『敵のしわざだな。』主人はすぐに真相を見抜きました。　使用人たちが、『毒麦を引き抜きましようか』と尋ねると、　29主人は、『いや、だめだ。　そんなことをしたら、麦まで引き抜いてしまうだろう。　30収穫の時まで、放っておけ。　その時がきたら、まず毒麦だけを束ねて燃やし、あとで麦はきちんと倉庫に納めさせればいいから』と答えました。」

31　また、こんなたとえ話もあります。　「天国は、畑にまいたからしの種みたいです。

32それはどんな種よりも小粒ですが、生長すると大きな木になり、鳥が巣を作れるほどになります。」

33　またさらに、こんなたとえ話もあります。　「天国は、女の人がパンを焼くのにも似ています。　小麦粉に、ほんの少しのイースト菌を入れるだけで、パン生地全体がふくらんできます。」

34　35群衆に話をする時は、イエスはいつも、このようなたとえ話をなさいました。　それは、預言者によって言われたことが実現するためでした。　「わたしはたとえを使って語り、世の初めから隠されている秘密を説き明かそう。」　36こうして、イエスが群衆と別れ、家に入られると、弟子たちは、さっきの毒麦のたとえの意味を説明してくださいと頼みました。

37　イエスは、お答えになりました。　「いいでしょう。　良い麦の種をまく農夫とは、わたしです。　38畑とはこの世界、良い麦の種というのは天国に属する人々、毒麦とは

悪魔に属する人々のことです。 39畑に毒麦の種をまいた者とは悪魔であり、収穫の時とはこの世の終わり、刈り入れをする人とは御使いたちのことです。

40 この話では、毒麦がより分けられ、焼かれますが、この世の終わりにも、同じようなことが起こります。 41わたしは御使いを送って、人をそそのかす者や悪人たちをより分け、 42炉に投げ込んで燃やしてしまいます。悪人たちは、そこで泣きわめき、歯ぎしりしてくやしがるのです。 43その時、正しい人たちは、父の御国で太陽のように輝きます。聞く耳のある人は、よく聞きなさい。

44 天国は、ある人が畑の中で見つけた宝のようなものです。見つけた人は、もう大喜びで、だれにも知らせず、全財産をはたいてその畑を買い、宝を手に入れるに違いありません。

45 また天国は、良質の真珠を捜している宝石商のようなものです。 46彼は掘り出し物の真珠を見つけると、持ち物全部を売り払ってでも、それを手に入れようとするのです。

47 48また天国は、漁師にたとえることもできます。漁師は、いろいろな魚でいっぱいになった網を引き上げると、岸边に座り込んで網の中の魚をより分けます。食べられるものはかごに入れて、食べられないものは捨てるというふうに。 49この世の終わりにも、同じようなことが起こります。御使いがやって来て、正しい者と悪い者とを区別し、 50悪い者を火に投げ込むのです。彼らはそこで泣きわめき、歯ぎしりしてくやしがります。 51これで、わかりましたね。」

「はい。」

52 そこでイエスは、さらにこう言われました。「ユダヤ人のおきてに通じ、しかも、わたしの弟子でもある人たちは、古くからある聖書（旧約）の宝と、私が与える新しい宝と、二つの宝を持つことになるのです。」

故郷の町ナザレでのイエス

53 54この一連のたとえ話を語り終えられると、イエスはガリラヤのナザレにお帰りになり、町の会堂で教えられました。ところが、人々はみなイエスの知恵とその不思議な力に驚いてしまいました。「なんてこった。 55たかが大工のせがれじゃないか。あれの母親はマリヤだし、弟のヤコブも、ヨセフも、シモンも、ユダも、 56妹たちも、よく知っているぞ。みんな、ここに住んでるんだから。なのに、あのイエスが偉いなんてはずはないじゃないか。」 57人々は、かえってイエスに反感を持つようになりました。

「預言者はどこでも尊敬されますが、ただ自分の故郷、身内の者の間では尊敬されないものです。」イエスはこう言われました。 58このような人々の不信仰のために、そこでは、ほんのわずかの奇蹟を行なわれたただけでした。

一四

殺されたヨハネ

1 そのころ、イエスのうわさを聞いたヘロデ王は、家来たちに言いました。 2 「あれはバプテスマのヨハネだ。 ヨハネが生き返ったに違いない。 そうでなきゃ、こんな奇蹟はできるわけがない。」 3 実はこのヘロデは以前、兄のピリポの妻であったヘロデヤにそそのかされてヨハネを捕らえ、牢獄につないだ張本人でした。 4 それは、ヨハネが、兄嫁を横取りするのはよくないと忠告したからです。 5 その時ヘロデは、ヨハネを殺そうとも考えましたが、それでは暴動が起きる恐れがあったので、思いとどまりました。人々はみな、ヨハネを預言者だと信じて疑わなかったからです。

6 ところが、ヘロデの誕生祝いのパーティーが開かれた席で、ヘロデヤの娘が、みごとな舞を披露し、ヘロデをたいそう喜ばせました。 7 それで王は娘に、「ほしいものを、何でも言うがよい。 必ず与えよう」と誓いました。 8 ところがヘロデヤに入れ知恵された娘は、なんと、バプテスマのヨハネの首を盆に載せていただきたいと願い出たのです。 9 王は心を痛めましたが、自分が誓ったことでもあり、また並み居る客の手前もあって、引っ込みがつかせません。 しかたなく、それを彼女に与えるように命令しました。

10 こうしてヨハネは、獄中で首を切られ、 11 その首は盆に載せられ、約束どおり娘に与えられました。 娘はそれを母親のところに持って行きました。

12 ヨハネの弟子たちは死体を引き取って埋葬し、この悲惨な出来事をイエスに知らせました。

13 この知らせを聞くと、イエスは一人、舟をこぎ出し、人里離れた所へ行こうとなさいました。 ところが、大ぜいの群衆がそれと気づき、町々村々から、岸づたいにイエスのあとを追って行きました。

五つのパンと二匹の魚

14 舟から上がられたイエスは、大ぜいの群衆をごらんになり、あわれに思って、病人たちをみな治されました。

15 夕方になったので、弟子たちはイエスのところに来て、「先生。もうとっくに夕食の時間も過ぎてますよ。 こんな寂しい所じゃ、食べ物もないし、みんなを解散してはどうでしょう。 村へ行けば、めいめいで食べる物を買えますから」と勧めました。

16 しかし、イエスはお答えになりました。「それにはおよびません。 あなたがたが、みんなに食べる物をあげなさい。」

17 弟子たちは驚いて叫びました。「何ですって！ 先生、いま手もとには、小さなパンが五つと、魚が二匹あるだけなんですよ。」

18 ところがイエスは、「そのパンと魚とを持って来なさい」と言われました。

19 それから、群衆を草の上に座らせると、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて神の祝福を祈り求め、パンをちぎって、弟子たちに配らせました。 20 こうして、みんなが食べ、満腹したのです。 あとで、パンくずを拾い集めると、なんと十二のかごに、いっぱいになったではありませんか。 21 そこには、女や子供を除いて、男だけでも五人ぐらいの人がいたというのに。 22 このあとすぐ、イエスは弟子たちを舟に乗り込

ませて、向こう岸に向かわせ、また、群衆にも解散するよう説得なさいました。

23 みんなをお帰しになったあと、ただお一人になったイエスは、祈るために丘に登って行かれました。 24 一方、湖上では、夕やみが迫り、弟子たちは強い向かい風と大波に悩まされていました。

25 朝の四時ごろ、イエスが水の上を歩いて、弟子たちのところに行かれると、 26 弟子たちは、悲鳴をあげました。 てっきり幽霊だと思ったからです。

27 しかし、すぐにイエスが、「わたしです。 こわがらなくてもよいのです」と声をおかけになったので、彼らはほっと胸をなでおろしました。

28 その時です。 ペテロが叫びました。「先生。 もしほんとうにあなた様だったら、わたしに、水の上を歩いてここまで来い、とおっしゃってください。」

29 「いいでしょう。 来なさい。」 言われるままに、ペテロは舟べりをまたいで、水の上を歩き始めました。 30 ところが、高波を見てこわくなり、沈みかけたので、大声で、「助けてくれーっ」と叫びました。

31 イエスはすぐに手を差し出してペテロを助け、「ああ、信仰の薄い人よ。 なぜわたしを疑うのですか」と言われました。 32 二人が舟に乗り込むと、すぐに風はやみしました。

33 舟の中にいた者たちはみな厳粛な思いに打たれ、「あなた様はほんとうに神の子です」と告白しました。

34 やがて、舟はゲネサレに着きました。 35 イエスが来られたという知らせはたちまち町中に広まり、人々がどっと押しかけました。 互いに誘い合い、病人という病人をみな連れてきて、 36 イエスに頼みました。「せめてお着物のすそにでもさわらせてやってください。」さわった人たちはみな治りました。

一五

規則より大切なもの

1 パリサイ人やユダヤ人の指導者たちが、イエスに会いに、はるばるエルサレムからやって来ました。 2 彼らは、「どうしてあんたの弟子たちは、ご先祖様の言い伝えを守らないのか。 食事の前に手を洗わないとは、けしからん」と問い詰めました。

3 そこでイエスは、こう言われました。「それならお聞きします。あなたがたも自分たちの言い伝えのために、神のおきてを破っていますね。 それはどういうわけですか。

4 たとえば、おきてには、『あなたの父と母とを敬え。 だれでも父や母をののしる者は死刑に処せられる』とあります。 5 6 ところが、どうでしょう。 あなたがたは、両親が困っていようが何だろうが、『このお金は教会にささげました』と言いきえすれば、もう両親のためにそのお金を使わなくてもよいと教えています。 つまり、人間の作った規則を盾にとって、両親を敬い、そのめんどろを見なさいという神のおきてを破っているのです。

7 まさに偽善者です。 全くイザヤが預言したとおりです。

8 『彼らは口先ではわたしを敬うが、

心はわたしから遠く離れている。

9 彼らがわたしを拜んでも、むだなことだ。

神のおきての代わりに、

人間の規則を教えているのだから。』

10 それからイエスは、群衆を呼び寄せて言われました。「いいですか、よく聞きなさい。 11 おきてで禁じられている物を食べたからといって、汚れるわけではありません。人を汚すのは、口から出ることばであり、心の思いなのです。」

12 その時、弟子たちが来て言いました。「先生があんなことをおっしゃったので、パリサイ人たちはかんかんですよ。」

13 しかし、イエスは言われました。「わたしの父がお植えにならなかった木は、みな根こそぎ抜かれてしまいます。 14 だから、あの人たちのことは放っておきなさい。彼らは盲人なのです。おまけに、ほかの盲人の道案内までして、結局、二人とも溝にはまってしまうでしょう。」

15 すると、ペテロが尋ねました。「おきてで、きよくないとされている物を食べても汚れないというのは、どうしてですか。」

16 イエスは言われました。「こんなことがわからないのですか。 17 口から入る物は何でも腹に入って、外へ出ます。 18 ところが、悪いことばは悪い心から出てくるので、人を汚すのです。 19 つまり、悪い考え、殺人、姦淫、不品行、盗み、うそ、また悪口などは、心から出て、 20 人を汚すのです。だが、食事の前に手を洗うという規則を破ったからといって、汚れるわけではありません。」

21 イエスはその地方を去り、ツロとシドンに向かわれました。

数々の奇蹟

22 この地方に住んでいるカナン人の女がイエスのところに来て、必死に願いました。「主よ。 ダビデ王の子よ！ お願いでございます。どうか、私をあわれと思ってお助けくださいまし。娘が悪霊に取りつかれて、ひどく苦しんでいるのです。」

23 しかし、イエスは堅く口を閉ざして、ひと言もお答えになりません。とうとう弟子たちが、「あの女に早く帰るように言ってください。あんまりしつこいので、うるさくてしかたがありません」と頼みました。

24 それでイエスは、「わたしが遣わされたのは、外国人を助けるためではありません。ユダヤ人を助けるためです」と説明なさいました。

25 それでも女は、イエスの前にひれ伏し、「主よ。どうかお助けください」と願い続けました。

26 イエスは、「子供たちのパンを取り上げて、犬に投げてやるのはよくないことですよ」と言われました。

27 しかし、女はあきらめません。「おおせのとおりです。でも、食卓の下にいる小犬でも、落ちたパンくずぐらひは食べさせてもらえますもの。」

28 そのことばにイエスは感心し、「あなたの信仰は見上げたものです。いいでしょう。願いをかなえてあげましょう」と言われました。ちょうどその時、娘は治りました。

29 さて、舞台は再びガリラヤ湖に移ります。イエスは丘に登り、腰をおろしておられました。30そこへ、大ぜいの人が、足の不自由な者、盲人、体の不自由な人、聾啞者をはじめ、たくさんの病人を連れて来たので、イエスはその人たちをみな治されました。

31 なんとという驚くべき光景でしょう。口のきけなかった人が興奮して話しだし、歩けなかった人が歩きだし、目の見えなかった人が見えるようになったのです。人々は驚き、心からイスラエルの神をほめたたえました。

32 イエスは、弟子たちを呼び寄せられました。「この人たちがかわいそうです。もう三日もわたしといっしょにいるのですから。食べ物とはつくにないようだし、このまま帰らせたなら、きっと途中で倒れてしまうでしょう。」

33 「でも、こんな寂しい所で、これほどたくさんの人ですよ……。それだけの食べ物を、いったいどこで手に入れるのですか。」

34 「今、手もとにある食べ物は？」

「パンが七つと、小さい魚がほんの少しだけです。」

35 それを聞くと、イエスは、みんなを地べたに座らせました。36そして、七つのパンと魚を取り、神に感謝をささげてから、それを裂き、弟子たちに渡して、一人一人に配らせました。3738 婦人や子供を除いても、四千人もの群衆でしたが、だれもが満腹するほど食べました。あとでパンくずを拾い集めると、なんと七つのかごがいっぱいになりました。

39 そこで、イエスは人々を家に帰し、舟に乗ってマガダン地方へ向かわれました。

一六

まちがった教え

1 ある日、パリサイ人やサドカイ人たちがイエスのところに来て、天からのすばらしい奇蹟を見せてくださいと頼みました。メシヤ（救い主）だと自称するイエスの主張がほんとうかどうかを、試してやろうと思ったのです。

23 イエスのご返事はこうでした。「あなたがたは、天気を予測するのが得意です。夕焼けになると、『明日は晴れだ』と言うし、朝焼けを見ると、『今日は荒れ模様だ』と言います。そんなに上手に空模様を見分けるのに、これほどはっきりした時代の兆候は、読み取れないのですか。4 今の悪い不信仰な時代は、不思議なしるしが天に現われることばかり求めています。しかし、ヨナの身に起こった奇蹟以外に、神からの証拠は与えられません。」そしてイエスは、彼らを残したまま去って行かれました。

5 一行は湖の向こう岸へ渡りました。ところが、食べ物を持って来るのを忘れていたのです。

6 イエスは、「パリサイ人とサドカイ人のイースト菌に気をつけなさい」と忠告なさいましたが、7 弟子たちは、パンを忘れてきたので、おしかりになっているのだろうと勘違

いしました。

8 それに気づいたイエスは、「ああ、信仰の薄い人たちよ。なぜそんなに、食べ物を持って来なかったことを気に病むのですか。9 まだわからないのですか。五つのパンを五千人に食べさせた時、幾かごものパンが余ったではありませんか。10 また四千人に食べさせた時も、たくさんのパンが余りました。11 パンのことなど問題ではありません。どうしてわからないのですか。もう一度、はっきり言いましょう。わたしは、『パリサイ人とサドカイ人のイースト菌に気をつけなさい』と言ったのです」と言われました。

12 それでやっと弟子たちにも、イースト菌とは、パリサイ人やサドカイ人のまちがった教えのことだとわかりました。

わたしはだれか

13 ピリポ・カイザリヤに行った時、イエスは弟子たちに、「みんなは、わたしのことをだれだと言っていますか」とお尋ねになりました。

14 弟子たちは答えました。「バプテスマのヨハネだと言う人もいますし、エリヤだと言う人もいます。また、エレミヤだとか、ほかの預言者の一人だとか、いろいろです。」

15 「では、あなたがたは、どうなのですか。」

16 シモン・ペテロが答えました。「あなた様こそ、キリスト（救い主）です。生ける神の子です。」

17 「ヨナの息子シモンよ。神があなたを祝福してくださったのです。それがわかったのは、天におられるわたしの父が、あなたに個人的に教えてくださったからです。人間の力ではありません。18 あなたはペテロ（岩）です。わたしはこの大きな岩の上にわたしの教会を建てます。地獄のどんな恐ろしい力も、わたしの教会に打ち勝つことはできません。19 あなたに天国のかぎをあげましょう。あなたが地上でかぎをかける戸は、みな、天でも閉じられ、あなたが地上でかぎを開ける戸はみな、天でも開かれるのです。」

20 このあとイエスは、ご自分がキリストであることをほかの人に話してはいけない、と弟子たちに注意なさいました。

21 その時から、イエスは、ご自分が、エルサレムに行くことと、そこでご自分の身に起こること、すなわち、ユダヤ人の指導者たちの手でひどく苦しめられ、殺され、そして三日目に復活されることを、はっきり弟子たちに話し始められました。

22 ところが、ペテロはイエスをわきへ呼んで忠告しました。「先生。とんでもございませぬ。あなたのようなお方に、そんなことが起こってたまるものですか！」

23 イエスはふり向かれ、「サタンよ。出て行きなさい！ そのようなことを言って、わたしをわなにかける気ですか。あなたはただ人間的な見方をして、神の立場を忘れている！」とおしかりになりました。

24 それから、弟子たちに言われました。「だれでもわたしの弟子になりたいければ、

自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしについて来なさい。 25いのちを大事にする者は、いのちを失うことになります。 しかし、わたしのためにいのちを投げ出す者は、それをもう一度自分のものにできるのです。 26たとえ、全世界を自分のものにしても、永遠のいのちを失ってしまったら、何の得になるでしょう。 いったい、永遠のいのちほど価値のあるものが、ほかにあるでしょうか。 27メシヤのわたしは、やがて、父の栄光を帯びて、御使いたちと共にやって来ます。 そして、一人一人を、その行ないによってさばくのです。 28今ここにいる者の中には、生きているうちに、わたしが御国の力を帯びて来るのを、その目で見る者がいます。」

一七

栄光に輝くイエス

1 六日後、イエスは、ペテロと、ヤコブとヨハネの兄弟とを連れて、人里離れた高い山の頂上に登られました。 2すると、三人の目の前で、たちまちイエスの姿が変わりました。 顔は太陽のように輝き、着物はまばゆいほどの白さです。

3 そこへ突然、モーセとエリヤが現われて、イエスと親しく話し始めたではありませんか。 4これを見て、ペテロは思わず口走りました。 「ああ、先生。 なんとありがたいことでしょう。 こんなすばらしい所に居合わずなんて！ もし、よろしければ、小屋を三つお建てしましょう。 あなた様と、モーセ様とエリヤ様のために。」

5 ところが、そう言っているうちにも、光り輝く雲が現われて、三人をすっぽり包んでしまいました。 そして雲の中から、「これこそ、わたしの愛する子。 わたしは彼を心から喜んでいる。 彼の言うことを聞きなさい」という声がしました。

6 この声を聞いた弟子たちは、恐ろしさのあまり、わなわたとふるえ、ひれ伏してしまいました。 7イエスは近寄り、彼らにさわって言われました。 「さあ、起きなさい。 こわがることはありません。」

8 それで、ようやく顔を上げると、そこにはもう、イエスのほかにはだれもおられませんでした。

9 山を降りながら、イエスは、いま見たことを、自分が復活するまではだれにも話してはいけません、とお命じになりました。

10 そこで、弟子たちが尋ねました。 「どうしてユダヤ人の指導者たちは、メシヤ（救い主）が来る前に、エリヤが必ず戻って来ると主張しているのでしょうか。」

11 「彼らの言うとおりのことです。 まずエリヤが来て、すべての準備をするのです。 12実際、エリヤはもう来たのです。 しかし、人々は彼を認めず、ひどい目に合わせました。 そればかりか、メシヤのわたしもまた、彼らの手で苦しめられるのです。」

13 その時、弟子たちは、イエスがバプテスマのヨハネのことを言っておられるのだと気づきました。

山を降りたイエス

14 彼らがふもとに着くと、大ぜいの群衆が待ちかまえていました。 その時、一人の男

が駆け寄り、イエスの前にひざまずいて叫びました。 15 「先生。 息子をあわれとお助けください。 ひどいてんかん持ちで、火の中でも水の中でも、おかまいなしに倒れるのです。 16 それで、お弟子さんたちのところに連れて来て、お願いしたのですが、だめでした。」

17 「ああ、なんと不信仰な人たちでしょう。 いったいつまで、あなたがたのことを我慢しなければならぬのですか。 さあ、その子をここに連れて来なさい。」 18 こう言って、その子に取りついている悪霊をおしかりになると、悪霊は、出ていき、子供はその場ですっかり治ってしまいました。

19 あとで弟子たちは、そっとイエスに尋ねました。 「どうして、私たちには悪霊が追い出せなかったのでしょうか。」

20 イエスはお答えになりました。 「信仰が足りないからです。 もしあなたがたに、からの種ほどの信仰があったら、この山に向かって『動け』と言えば、そのとおりの山は動くのです。 何でもできないことはありません。 21 ただし、こういった悪霊は、祈りと断食によらなければ、とても追い出せないのです。」

22 23 まだガリラヤにいたある日のこと、イエスはこんなことをお話しになりました。 「わたしは裏切られ、人々の手に引き渡され、殺されますが、三日目には必ず復活します。」これを聞いて、弟子たちの心は悲しみと恐れとで、いっぱいになりました。

24 カペナウムに着いた時、神殿に納める税金を取り立てる役人がペテロのところへ来て、「あんたがたの先生は、税金を納めないのか」と尋ねました。

25 「もちろん、納めますとも。」こう答えると、ペテロは急いで家に入り、このことを話そうとしました。ところが、まだ話を切り出さないうちに、イエスのほうから、お尋ねになりました。 「ペテロ。 あなたはどう思いますか。 世の王たちはだれから税を取り立てるのでしょうか。 自分の子供たちからですか、それとも、ほかの人たちからですか。」

26 「ほかの人たちからです」とペテロは答えました。

「では、王の子供たちは税金を納める必要はないのです。 27 しかし、役人たちを怒らせたくはありません。 今から湖へ行つてつり糸をたれてみなさい。 最初につれた魚の口から、わたしたち二人分の税金を払うだけのお金が見つかるはずですよ。 それで払いなさい。」

一八

小さい子供のように

1 そこへ、弟子たちがやって来て、「私たちのうち、だれが天国で一番偉いのでしょうか」と尋ねました。

2 するとイエスは、近くにいた小さい子供を呼び寄せ、みんなの真ん中に立たせてから、話されました。

3 「よく聞いておくのですよ。 悔い改めて神に立ち返り、この小さい子供たちのよう

にならなければ、決して天国には入れません。 4ですから、小さい子供のように自分を低くする者が、天国では一番偉いのです。 5また、だれでも、この小さい者たちを、わたしのために受け入れる者は、わたしを受け入れるのです。 6反対に、わたしに頼りきっているこの子供たちの信仰を失わせるような者は、首に大きな石をくくりつけられて、海に投げ込まれたほうが、よっぽどましです。

7 悪がはびこるこの世はいまわしいものです。誘惑されるのは避けられないとしても、誘惑のもとになる人はいまわしいものです。 8罪を犯させるものは、手だろうが足だろうが、切り取ってしまいなさい。 五体満足で地獄へ行くより、片手片足になっても天国に入るほうが、よっぽどましです。 9また、目が罪を犯させるなら、そんなものはえぐり出しなさい。 両眼そろって地獄へ行くより、片目でも天国に入るほうが、よっぽどましだからです。

10 この小さい子供たちの一人でも、見下げたりしないように気をつけなさい。 言っておきますが、天国では、子供たちを守る御使いが、いつでもわたしの父のそば近くにいるのです。 11メシヤ（救い主）のわたしは、神から離れ、迷っている者を救うために来たのです。

12 ある人が百匹の羊を持っていたとします。 そのうちの一匹が迷い出ていなくなったら、その人はどうするでしょう。 ほかの九十九匹はその場に残したまま、いなくなった一匹を捜しに、山へ出かけるでしょう。 13そして、もし見つけようものなら、何でもなかったほかの九十九匹以上に、この一匹のために大喜びします。 14同じように、わたしの父も、この小さい者たちの一人でも滅びないようにと願っておられるのです。

人を赦す者

15 信仰の友達があなたがたに罪を犯した時は、一人で行って、その誤りを指摘してあげなさい。 もし、相手が忠告を聞いて罪を認めれば、あなたはその友達を取り戻したことになるのです。 16しかし、もしあなたの言うことに耳を貸そうとしないなら、一人か二人の証人を立てて、もう一度相手のところへ行きなさい。 あなたの言い分をすべて証明してもらうためです。 17それでも忠告を聞き入れないなら、その問題を教会に持ち出しなさい。 そして、教会があなたを支持してもなお、相手がそれを受け入れないなら、教会はその人と交わるのをやめなさい。 18言っておきますが、あなたがたが地上で赦したり、禁じたりすることは、天でも同じようになされるのです。

19 このことも言っておきましょう。 もし、あなたがたのうち二人の者が、何であれ、この地上で心をつにして願い求めるなら、天におられるわたしの父は、その願い事をかなえてくださいます。 20たとえ二、三人でも、わたしを信じる者同士が集まるなら、わたしはその人たちの真ん中にいるからです。」

21 その時、ペテロが、イエスのそばに来て尋ねました。 「先生。 友達が私に罪を犯した場合、何回ぐらいまで赦してやればいいでしょうか。 七回でしょうか。」

22 イエスはお答えになりました。 「いや、七回を七十倍するまでです。」

23 天国は、帳じりをきちんと合わせようとした王にたとえることができます。 24 清算が始まってまもなく、王から三十億円というばく大な借金をしていた男が引き立てられて来ました。 25 その男は借金を返すことができなかったので、王は、自分の身や持ち物全部を売り払ってでも返済しろ、と命じました。

26 ところが、男は王の前にひれ伏し、顔を地面にすりつけて、『ああ、王様。 お願いでございます。 もう少し、もう少しだけお待ちください。 きっと全額お返しいたしますから』と、必死に願いました。

27 これを見て、王はかわいそうになり、借金を全額免除し、釈放してやりました。

28 ところが、赦してもらった男は、王のところから帰ると、その足で、六十万円貸してある人の家に出かけました。 そして、首根っこをつかまえ、『たったいま借金を返せ』と迫ったのです。

29 相手は、男の前にひれ伏して、『今はかんべんしてください。 もう少ししたら、きっとお返ししますから』と、拝まんばかりに頼みました。

30 しかし、男は少しも待つてやろうとはせず、その人を捕らえると、借金を全額返すまで牢にたたき込んでしまいました。

31 このことを知った友人たちが王のところへ行き、事の成り行きを話しました。 32 怒った王は、借金を免除してやった男を呼びつけて、言いました。 『この人でなしめっ！ おまえがあんなに頼んだからこそ、あれほど多額の借金も全部免除してやったのだ。

33 自分があわれんでもらったように、ほかの人をあわれんであげるべきではなかったのかっ！』

34 そして、借金を全額返済し終えるまで、男を牢に放り込んでおきました。 35 あなたがたも、心から友達を赦さないなら、天の父も、あなたがたに同じようになさるのです。」

一九

1 これらのことを話し終えられると、イエスはガリラヤをお去りになり、ヨルダン川を渡って、ユダヤ地方に向かわれました。 2 すると、大ぜいの人があとを追って来たので、病人を治されました。

結婚と離婚

3 イエスをわなにかけ、破滅させてやろうと、何人かのパリサイ人がやって来ました。 そして、「あなたは離婚をお認めになりますか」と尋ねました。

4 - 6 「聖書（旧約）を読んだことがないのですか。 聖書には、神が初めに男と女を造られたので、人は両親から離れて、永遠に妻と結ばれ、二人の者は一体となる、と書いてあるではないですか。 彼らはもう二人ではなく、一人なのです。 ですから、神が結び合わせたものを、だれも離すことはできません。」

7 「でも、モーセは、離縁状を渡しさえすれば、妻と別れてもよいと言いましたよ。」なおも食い下がる彼らに、 8 イエスは答えて言われました。「モーセがそう言ったのは、

あなたがたの心が邪悪で強情なのを知っていたからです。しかしそれは、神がもともと望んでおられたことではありません。9 言っておきますが、不倫以外の理由で妻を離縁し、ほかの女性と結婚する者は、姦淫の罪を犯すのです。」

10 「それなら、結婚しないほうがましですね。」弟子たちがイエスに言いました。

11 「そうは言っても、独身で通すことは、だれにでもできることではありません。ただ、神に力を与えられた者だけが、できるのです。12 生まれつき結婚する能力のない人もいるし、人の手で結婚できないようにされた人もいます。またある人は、天国のために、自分から進んで独身を通します。わたしの言ったことを受け入れることのできる人は、受け入れなさい。」

13 その時、イエスに手を置いて祈っていただくとうと、人々が小さい子供たちを連れて来ました。ところが、弟子たちは、「先生のおじやまだ」としかりつけました。

14 しかし、イエスはそれをとどめて、「子供たちを自由に来させなさい。じゃまをしてはいけません。天国は、この子たちのような者の国なのですから」と言われました。

15 そして、子供たちの頭に手を置いて祝福し、そこを去って行かれました。

天国に入るには？

16 一人の青年がイエスのところに来て、こう質問しました。「先生。永遠のいのちがほしいのですが、どんな良いことをしたら、もらえるでしょうか。」

17 「良いことについて、なぜわたしに尋ねるのですか。ほんとうに良い方は、ただ神お一人なのです。しかし、質問に答えてあげましょう。天国に入るには、神のおきてを守ればいいのです。」

18 「どのおきてでしょうか。」

「殺してはならない、姦淫してはならない、盗んではならない、うそをついてはならない、
19 あなたの父や母を敬いなさい、隣人を自分と同じように愛しなさい、というおきてです。」

20 「それなら、全部守っています。ほかには？」

21 「完全な者になりたければ、家に帰って、財産を全部売り払い、そのお金を貧しい人たちに分けてあげなさい。天に宝をたくわえるのです。それから、わたしについて来なさい。」22 青年はこれを聞くと、悲しそうに帰って行きました。たいへんな金持ちだったからです。

23 イエスは、弟子たちに言われました。「金持ちが天国に入るのは、なんとむずかしいことでしょう。24 もう一度言いますが、金持ちが天国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうがずっとやさしいのです。」

25 このことばに、弟子たちはすっかり面食らってしまいました。「それなら、この世の中で、救われる人などいるのでしょうか。」

26 イエスは、弟子たちをじっと見つめて言われました。「人間にはできません。だが、神には、何でもできます。」

27 その時、ペテロが質問しました。「私たちは何もかも捨てて、お従いしてまいりました。それで、いったい何がいただけるのでしょうか。」

28 イエスはお答えになりました。「メシヤ（救い主）のわたしが、やがて、御国の栄光の王座につく時、あなたがたも十二の王座について、イスラエルの十二の部族をさばくことになるのですよ。29 わたしに従うために、家、兄弟、姉妹、父、母、妻、子、あるいは財産を捨てた者はだれでも、代わりにその百倍もの報いを受け、また永遠のいのちまでいただくのです。30 ただ、今は先頭に行くように見える者が、その時には最後になり、今は最後にいるように見えても、その時には先頭になる者が大ぜいいるのです。

二〇

1 天国を、こんなふうにととえることもできます。農園の経営者が、果樹園で働く日雇労働者を雇おうと、朝早く出かけて行きました。2 そして、日当六千円の約束で、労働者たちを果樹園へ送り込みました。

3 二、三時間後、また、職を求める人々の集まる場所へ行ってみると、仕事にあぶれた男たちがたむろしています。4 それで、その人たちも、夕方には適当な賃金を払うという約束で、果樹園へ行かせました。5 昼ごろと、午後の三時ごろにも、同じようにしました。

6 夕方五時近くに、もう一度出かけてみると、まだぶらぶらしている者たちがいます。『どうして一日中遊んでいるのかね』と尋ねると、7 『仕事がないのでさあ』と答えたので、農園主は言いました。『それなら今すぐ行って、私の農園でみんなといっしょに働きなさい。』

8 終業の時刻になり、農園主は会計係に言いつけて、労働者たちを呼び集めました。そして、最後に雇った男たちから順に日当を支払いました。9 五時に雇われた男たちの日当はなんと一人六千円です。10 それで、早くから仕事にかかっていた男たちは、もっとたくさんもらえるだろうと思いました。ところが、彼らの日当もやっぱり六千円だったのです。

11 12 当てがはずれた者たちはみな、農園主に文句を言いました。『あいつらは、たった一時間働いただけなんですぜ。なのに、この炎天下、一日中働いたおれたちと同じに払ってやるんですかい。』

13 ところが、農園主はその一人に答えました。『いいかね。私はおまえに何も悪いことはしていないぞ。おまえは一日六千円で働くことを承知したはずだ。14 文句を言わずに、それを持って帰れ。私はだれにでも分けへだてなく払ってやりたいのだ。

15 自分の金をどう使おうと、自由だろうが。私がほかの者たちに親切なので、おまえは腹を立てているのか。』16 このように、最後の者が最初になり、最初の者が最後になるのです。」

仕える者になりなさい

17 さて、エルサレムへ行く途中のことです。 イエスは十二人の弟子だけをわきへ呼び寄せ、 18 やがて、自分がエルサレムでどんな目に会うかを、お話しになりました。

「わたしは、祭司長や他のユダヤ人の指導者たちに引き渡され、彼らから死刑を宣告されます。 19 そしてローマの役人の手に渡され、あざけられ、十字架につけられます。 しかし、わたしは三日目に復活するのです。」

20 その時、ゼベダイの息子ヤコブとヨハネとの母親が、息子たちを連れて来ました。母親はイエスの前にひざまずき、「お願いがございます」と言いました。

21 「どんなことですか。」

「どうぞ、あなた様の御国で、二人の息子を、あなた様の次に高い位につかせてやってくださいまし。」

22 ところがイエスは、「あなたには、何もわかっていませんね」と答え、今度は、ヤコブとヨハネのほうをご覧になりました。

「あなたがたは、わたしが飲もうとしている恐るべき杯を飲むことができますか。」

「はい。 できます。」イエスの質問に、二人はきっぱり答えました。

23 しかしイエスは、「確かに飲むことにはなるでしょう。 だが、だれをわたしの次の位につかせるかは、わたしの決めることではありません。 わたしの父がお決めになることです」と言われました。

24 ほかの十人の弟子たちは、ヤコブとヨハネがイエスにどんな願い事をしたかを聞いて、もうれつに腹を立てました。

25 そこでイエスは、彼らを呼び集め、言われました。「この世の普通の人たちの間では、王は暴君であり、役人は部下にいばり散らすものです。 26 だが、あなたがたの間では、違います。 リーダーになりたい者は、仕える者になりなさい。 27 上に立ちたいと思う者は、奴隷のように仕えなければなりません。 28 メシヤ（救い主）のわたしでさえ、人々に仕えられるためではなく、みんなに仕えるためにこの世に来たのです。 そればかりか、多くの人の罪の代償として自分のいのちを与えるために来たのです。 だからあなたがたも、わたしを見なさい。」

29 イエスの一行がエリコの町を出ると、大ぜいの人があとについて行きました。

30 途中の道ばたに二人の盲人が座っていました。 イエスのお通りだと聞いた二人は、大声で訴えました。「主よ。 ダビデ王の子よ！ 私どもをあわれんでください。」

31 人々が黙らせようとすると、ますます激しく叫び立てます。

32 33 ところが、イエスは二人の前でびたりと足を止め、「どうしてほしいのですか」とお尋ねになりました。「先生。 見えるようになりたいんです。」彼らは答えました。

34 イエスは心からかわいそうに思い、彼らの目におさわりになりました。 すると、たちまち目が見えるようになり、二人はイエスについて行きました。

二一

エルサレムへ

1 一行がエルサレムに近づき、オリーブ山のふもとのベテパゲ近くまで来た時、イエスは弟子を二人、こう言って使いに出しました。

2 「村に入るとすぐ、一頭のろばといっしょに、子ろばが見つからないのに気づくでしょう。それをほどこいて、連れて来なさい。3もしだれかに、何をしているのかと聞かれたら、『主がお入用なのです』とだけ答えなさい。そうすれば、何もめんどろは起こらないはずですよ。」

4 それは、次のような昔の預言が実現するためでした。

5 「エルサレムに告げよ。

『王がおいでになる。

ろばの子に乗って。

柔和な王がおいでになる。』」

6 二人の弟子は、イエスの言いつけどおりに、7ろばの親子を連れて戻りました。そして、子ろばの背に自分たちの上着をかけ、イエスをお乗せしました。8すると、群衆の中の大ぜいの者が、イエスの進んで行かれる道に自分たちの上着を敷いたり、木の枝を切ってきて敷き並べたりしました。

9 どっと押し寄せた群衆は、イエスを取り囲み、口々に叫びました。

「ダビデ王の子、ばんざーいっ！」

「主をほめたたえよ！」

「このお方こそ神の人だーっ！」

「主よ。このお方に祝福を！」

10 イエスがエルサレムに入られると、町中が上を下への大騒ぎです。だれもが興奮して、「いったい、その方はどなたなんだい」と尋ねます。

11 イエスについて来た群衆は、「ガリラヤのナザレ出身の預言者イエス様だよ」と答えました。

12 それから、イエスは宮にお入りになり、境内で商売していた者たちを追い出され、両替人の机や、鳩を売っていた者たちの台をひっくり返し始められたのです。

13 そして、彼らにはっきりと言われました。「聖書(旧約)には、『わたしの神殿は祈りの場所と呼ばれる』と書いてあります。ところがあなたがたは、それを強盗の巣にしてしまったではありませんか。」

14 この宮の中へも、盲人や足の不自由な人たちがやって来たので、イエスは彼らを治されました。15ところが、祭司長や他のユダヤ人の指導者たちは、イエスが不思議な奇蹟を行なうのを見、また宮の中で小さい子供までが「ダビデ王の子、ばんざーいっ！」と叫ぶのを聞いて、すっかり腹を立てました。16そしてイエスに、「子供までがあんなことを言っているのに、おまえには聞こえないのか」と抗議しました。

しかしイエスは、お答えになりました。「もちろん聞こえています。だが、いったい、あなたがたは聖書を読んだことがないのですか。『小さい子供でさえ神をたたえる』

と、書いてあるのを。」

17 それから、イエスはエルサレムを出て、ベタニヤ村にお戻りになり、そこで一泊なさいました。

18 翌朝、エルサレムに向かう途中、イエスは空腹になりました。 19ふと見ると、道ばたにいちじくの木があります。 さっそく、そばへ行き、実がなっているかどうかをごらんになりましたが、あいにく葉ばかりです。 それで、イエスはその木に、「二度と実がなるな」と言われました。 すると、どうでしょう。 木はみるみる枯れていきました。

20 「ああ、先生。 どうしたんでしょう。 こんなにもすぐに枯れるなんて……。」すっかり驚いた弟子たちの質問に、 21イエスはお答えになりました。 「よく聞きなさい。 あなたがただって、信仰を持ち、疑いさえしなければ、もっと大きなことができるのですよ。 たとえば……、このオリーブ山に、『動いて、海に入れ』と言っても、そのとおりになります。 22ほんとうに信じて祈り求めるなら、何でも与えられるのです。」

敵のわな

23 イエスが宮に戻って教えておられると、祭司長と他のユダヤ人の指導者たちが来ました。 「昨日、おまえは商人たちを、ここから追い出したな。 いったい何の権威があって、そんなことをしたんだ。 ええっ。 さあ答えてもらおう。」彼らは詰め寄りました。

24 イエスはお答えになりました。 「いいでしょう。 だが、まずわたしの質問に答えなさい。 そのあとで答えましょう。 25バプテスマのヨハネは、神から遣わされたのですか。 それとも、遣わされなかったのですか。」彼らは集まって、ひそひそ相談しました。 「もし、『神様から遣わされた』と答えれば、『それを知っていて、どうしてヨハネのことばを信じなかったのか』と聞かれるだろう。 26だからといって、『神様から遣わされたのではない』と言えば、今度は、ここにいる大ぜいの群衆が騒ぎだすだろう。 なにしる連中はみな、ヨハネを預言者だと信じきっているんだから。」 27結局、「わかりません」と答えるほかありませんでした。

するとイエスは、言われました。 「それなら、わたしもさっきの質問には答えません。 28ところで、次のような話をどう思いますか。 ある人に息子が二人いました。 兄のほうに『今日、農場で働いてくれ』と言うと、 29『はい、行きます』と答えたのに、実際には行きませんでした。 30次に、弟のほうに、『おまえも行きなさい』と言いました。 弟は『いやです』と答えましたが、あとで悪かったと思い直し、出かけました。 31二人のうち、どちらが父親の言うことを聞いたのでしょうか。」「もちろん、弟です。」彼らは答えました。

次にイエスは、そのたとえ話の意味を説明なさいました。 「確かに、悪人や売春婦たちのほうが、あなたがたより先に神の国に入ります。 32そうでしょう。 バプテスマのヨハネが来て、悔い改めて神に立ち返れと言った時、あなたがたはその忠告を無視しました。 しかし、極悪人や売春婦たちは言われたとおりにしました。 あなたがたは、それを目のあたりにしながら、なお罪を捨てようとしませんでした。 ですから、信じること

ができなかったのです。

33 もう一つのたとえ話をしましょう。ある農園主が、ぶどう園を造り、垣根を巡らし、見張りの塔を建てました。そして、収穫の何割かを取り分にするという約束で、農夫たちにぶどう園を貸し、自分は外国へ行って、そこに住んでいました。

34 さて、収穫の時期になったので、幾人かの代理人をやり、自分の分を受け取ろうとしました。35ところが農夫たちは、代理人たちに襲いかかり、袋だたきにするやら、石を投げつけるやらしたあげく、一人を殺してしまいました。

36 農園主はさらに多くの人を送りましたが、結果は同じことでした。37最後には、ついに息子を送ることにしました。息子なら、きっと敬ってくれるだろうと思ったからです。

38 ところが農夫たちは、その息子が来るのを見ると、『おっ、あれは、ぶどう園の跡取りだ。よーし、あいつを片づけようぜ。そうすりゃあ、ここはおれたちのものだ』と言って、39彼をぶどう園の外に引きずり出し、殺してしまいました。

40 さあ、農園主が帰って来た時、この農夫たちはどんな目に会うでしょうか。」

41 「もちろん農園主は、その悪者どもを情け容赦なく殺して、きちんと小作料を納める、ほかの農夫たちに貸すに決まっています。」

42 「聖書（旧約）にこう書いてあるのを、読んだことがないのですか。

『建築士たちの捨てた石が、最も重要な土台石となった。

なんとすばらしいことか。

主は、なんと驚くべきことをなさる方か。』

43 わたしが言いたいのは、こういうことです。神の国はあなたがたから取り上げられ、収穫の中から、神に納める分をきちんと納める、ほかの人たちに与えられるのです。

44 この真理の石につまずく者はみな打ち砕かれます。反対に、この石が落ちてくると、だれもかれも、こっぴみじんです。」

45 祭司長やパリサイ人たちは、このたとえ話を聞いて、その悪い農夫とは、実は自分たちのことなのだと気づきました。46それで、なんとかイエスを始末しようと考えましたが、群衆がこわくて手出しができません。群衆は、イエスを預言者だと認めていたからです。

二二

天国とは？

1 天国がどのようなものを教えようと、イエスはまた幾つかのたとえ話をなさいました。

2 「たとえば、天国は、王子のために盛大な結婚披露宴を準備した王のようなものです。

3大ぜいの客が招待されました。宴会の準備がすっかり整ったので、王は使いをやり、招待客に、もうおいでになる時間です、と知らせました。ところが、なんと、みな出席

を断わってきたではありませんか。 4 それでも王は、もう一度別の使いをやり、こう言わせました。『何もかも用意ができました。肉も焼き始めています。あなた様のおいでを待つばかりです。』

5 ところが、招待客はそれをせせら笑うだけで、ある者は農場へ、ある者は自分の店へと出かけて行きました。 6 そればかりか、中には王の使者に恥をかかせたり、なぐったり、殺してしまう者さえいました。

7 これを聞いて、もうれつに怒った王は、すぐさま軍隊を出動させ、人殺しどもを滅ぼし、町を焼き払ってしまいました。 8 そして王は、『披露宴の準備はできたというのに、招いておいた者どもは列席する資格のない連中ばかりだった。 9 よろしい。さあ、町へ行って、出会う者は片っぱしから、みな招待してくるのだ』と命じました。

10 王の使者たちは、命令どおり、善人悪人の区別なく、だれでも招待してきました。宴会場は客でいっぱいです。 11 ところが、王が客に会おうと出て来ると、用意しておいた婚礼の礼服を着ていない客が一人います。 12 『礼服もつけずに、どうしてここへ入って来たのか』と尋ねましたが、その男は何とも返事をしません。

13 それで王は、側近の者たちに命じました。『この男の手足を縛って、外の暗やみに放り出せ。そこで泣きわめいたり、歯ぎしりしたりしてくやしがるがよい。』 14 招待される人は多くても、選ばれる人は少ないのです。」

15 そのころ、パリサイ人たちは、イエスをわなにかけて逮捕のきっかけになることを言わせようと、知恵をしばりました。 16 そして、数人の仲間をヘロデ党（ヘロデを支持する政治的な一派）の者たちといっしょにイエスのところへやり、こう質問させました。

「先生。あなた様がたいへん正直なお方で、だれをも恐れず、また人をえこひいきもなさらず、いつも堂々と真理を教えておられることは、よく存じ上げております。 17 それで、ぜひともお教え願いたいのですが……、ローマ政府に税金を納めることは、正しいことでしょうか。それともよくないことでしょうか。」

18 イエスは、彼らの計略を見抜いて言われました。

「偽善者たち！ わたしをわなにかけようというのですか。 19 さあ、銀貨を出して見せなさい。」

20 「ここに刻まれているのは、だれの肖像ですか、その下にある名前はだれのものですか。」銀貨を受け取ったイエスは問いました。

21 「カイザル（ローマ皇帝）です。」

「そのとおり。ローマ皇帝のものなら、それはローマ皇帝に返しなさい。しかし神のものは全部、神に返さなければなりません。」

22 彼らはこの答えに驚き、返すことばもなく、すごすごイエスの前から立ち去りました。

23 ちょうど同じ日に、死後の復活などはないと主張するサドカイ人たちも来て、イエスに尋ねました。 24 「先生。モーセの法律では、ある男が結婚して子供のないまま

死んだ場合、弟が兄の未亡人と結婚して、生まれた子供に兄のあとを継がせることになっていますね。 25ところで、こういう場合はどうなるのでしょうか。 七人兄弟の家族があつて、長男は結婚しましたが、子供がないまま死んだので、残された未亡人は次男の妻になりました。 26ところが、次男も子供がないまま死に、その妻は三男のものになりました。 しかし、三男も四男も同じことで、ついにこの女は、七人兄弟全部の妻になりましたが、結局、子供はできずじまいでした。 27そして、彼女も死んだのですが……、28そうすると、復活の時には、彼女はいついだれの妻になるのでしょうか。 生前、七人とも彼女を妻にしたのですが。」

29 しかし、イエスは言われました。 「あなたがたは聖書も神の力もわかっていません。 思い違いをしています。 30いいですか。 復活の時には、結婚などというものはありません。 みんなが天の使いのようになるのです。 3132ところで、死人が復活するかどうかについて、聖書を読んだことがないのですか。 神が、『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』と言われた時（すでに死んでしまったアブラハム、イサク、ヤコブがいま神の御前で生きていなければ、神は『アブラハム、イサク、ヤコブの神であった』と言われるはずです）、あなたがたにも直接そう語りかけておられたのだということが、わからないのですか。 神は死んだ人の神ではなく、生きている人の神なのです。」

一番重要な戒め

33 群衆はこのイエスの答えに、すっかり感心しました。 3435しかし、パリサイ人たちはそうはいきません。 サドカイ人たちが言い負かされると知ると、彼らは彼らで新しい質問を考え出し、さっそくイエスのところにやって来ました。 その中の法律の専門家が、 36「先生。 モーセの法律の中で一番重要な戒めは何でしょうか」と尋ねました。

37 イエスはお答えになりました。 「『心を尽くし、たましいを尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』 38これが第一で、最も重要な戒めです。 39第二に重要なもの、同じようなもので、『自分を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい』という戒めです。 40ほかのすべての戒めと預言者たちの命令も、この二つから出ています。 ですから、この二つを守れば、ほかの戒めを全部守ったことになるのです。 これを守りなさい。」

41 それから、イエスは、回りを取り囲んでいるパリサイ人たちに質問なさいました。

42 「キリストをどう思いますか。 彼はいついだれの子ですか。」

「ダビデ王の子です。」

43 「それでは、なぜダビデは聖霊に動かされて語った時、キリストを『主』と呼んだのでしょうか。 確かこんなふうに……。

44 『神が私の主に言われた。

「わたしがあなたの敵を

あなたの足の下に置くまで、
わたしの右に座っていなさい。』

45 ダビデがキリストを『主』と呼んでいるのなら、キリストが、ただのダビデの子であるわけはありません。」

46 これには、返すことばもありませんでした。 その日以来、だれも、あえてイエスに質問しようとしなくなりました。

二三

偽善者のまちがい

1 イエスは群衆と弟子たちに、お語りになりました。 2 「ユダヤ人の指導者やパリサイ人たちが、あまりたくさん戒めを作り上げているので、あなたがたは、彼らをまるでモーセみたいだと思っているでしょう。 3 もちろん、彼らの言うことは、みな実行すべきです。言っていることはいいのですから。 だが、やっていることだけは絶対にまねてはいけません。 彼らは言うとおりに実行していないからです。 4 どうも実行できないような命令を与えておいて、自分では、それを守ろうともしないのです。

5 彼らのやることと言ったら、人に見せびらかすことばかりです。幅広の経札（聖書のことばを納めた小箱で、祈りの時に身につける）を腕や額につけたり、着物のふさ（神のおきてを思い出すために着物のすそにつけるように命じられていた）を長くしたりして、あたかも聖者であるかのように、ふるまいます。 6 また、宴会で上座に着いたり、会堂の特別席に座ったりするのが何より好きです。 7 街頭でいねいなあいさつを受けたり、『ラビ』とか『先生』とか呼ばれることも大好きです。 8 だがあなたがたは、だれからもそう呼ばれないようにしなさい。 なぜなら、神だけがあなたがたのラビ〔教師〕であって、あなたがたはみな同じ兄弟だからです。 9 またこの地上で、だれをも『父』と呼ばないようにしなさい。 天におられる神だけが『父』と呼ばれるにふさわしい方だからです。 10 それに、『先生』と呼ばれてもいけません。 あなたがたの先生は、ただキリスト一人です。

11 人に仕える人が最も偉大な者です。 ですから、まず仕える者になりなさい。 12 われこそはと思っている人たちは、必ず失望し、高慢の鼻をへし折られてしまいます。 一方、自分から身を低くする者は、かえって高く上げられるのです。

13 いまわしい人たちよ。 パリサイ人、ユダヤ教の指導者たち。 あなたがたは偽善者です。 天国に入ろうとしている人たちのじゃまをし、自分でも入ろうとはしないのです。 14 町の大通りで、見栄のための長い祈りをし、聖者のようなふりをしながら、そのくせ未亡人の家を食いものにしています。 偽善者たち。 15 そうです。 あなたがたのような偽善者こそいまわしいものです。 たった一人の改宗者（ユダヤ教に転向した人）をつくるために、どんな遠くへでもせっせと出かけて行くが、結局その人を、自分より倍も悪い地獄の子にしてしまうからです。 16 自分の目が見えないくせに人の道案内をしようとする者たち。 いまわしい人たちよ。 あなたがたの規則では、『神殿にかけて』

と誓った誓いは何でもないが、『神殿の黄金にかけて』と誓った誓いは果たさなければならぬ。 17 愚かな人たち。 黄金と、黄金を神聖なものにする神殿と、いったいどちらが大切なのですか。 18 また、『祭壇にかけて』と誓った誓いは破ってもいいが、『祭壇の上の供え物にかけて』と誓った誓いは果たさなければならぬ。

19 愚かな人たち。 祭壇の上の供え物と、その供え物を神聖なものにする祭壇自体と、いったいどちらが大切なのですか。 20 『祭壇にかけて』と誓うことは、祭壇の上のすべてのものにかけて誓うことにもなるのだし、 21 『神殿にかけて』と誓うなら、神殿と、そこにおられる神にかけて誓うことになるのです。 22 また、『天にかけて』と誓うなら、神の御座と神ご自身にかけて誓うことになるのです。

23 いまわしい人たちよ。 パリサイ人、ユダヤ教の指導者たち。 あなたがたは偽善者です。 自分の畑でとれる、はっかの葉の最後の一枚に至るまで、実にきちょうめに十分の一をささげているのに、正義と思いやり、信仰というほんとうに大切なことは無視しています。 もちろん、十分の一献金はしなければなりません。 しかし、もっと大切なことをなおざりにしては、何にもなりません。 24 自分の目が見えないくせに、他人の道案内をしようとする者たち。 あなたがたは、ぶよはこして取り出しながら、らくだは丸ごと飲み込んでいます。

25 いまわしい人たちよ。 パリサイ人、ユダヤ教の指導者たち。 あなたがたは偽善者です。 杯の外側はきれいにみがき上げるが、内側はゆすりと貪欲で汚れきっています。

26 目の見えないパリサイ人たち。 まず杯の内側をきれいにしなさい。 そうすれば、杯全体がきれいになるのです。

27 いまわしい人たちよ。 パリサイ人、ユダヤ教の指導者たち。 あなたがたは美しく塗り立てた墓のようです。 外側がどんなにきれいでも、中は死人の骨や汚らしいもの、腐ったものでいっぱいなのです。 28 自分を聖人らしく見せようとしているが、その信仰深そうな外見とは裏腹に、心の中はあらゆる偽善と罪で汚れているのです。

29 いまわしい人たちよ。 パリサイ人、ユダヤ教の指導者たち。 あなたがたは偽善者です。 先祖が殺した預言者の記念碑を建てたり、先祖の手にかかった、神を敬う者たちの墓前に花を飾ったりして、 30 『私たちには、ご先祖様がしたような、こんな恐ろしいまねは、とてもできません』とっています。

31 そんなことを言うこと自体、自分があの悪人たちの子孫だということを、自分で証言するようなものです。 32 あなたがたは先祖の悪業を継いで、その目盛りの不足分を満たしているのです。 33 蛇よ。 まむしの子らよ。 あなたがたは、地獄の刑罰を逃れることはできません。

34 わたしがあなたがたのところに、預言者や、聖霊に満たされた人、神のことばを書き記す力を与えられた人たちを遣わすと、あなたがたは彼らを十字架につけて殺したり、会堂でむち打ったり、町から町へと追い回して迫害したりします。

35 36 こうして、正義の人アベルから、神殿と祭壇との間で殺されたバラキヤの子ザカ

リヤに至るまで、神を敬う人たちが流したすべての血について、あなたがたは有罪とされます。　そうです。　何世紀にもわたって積み重ねられてきたこれらの報いは、今この時代の者たちの上に一度に降りかかってくるのです。

37　ああ、エルサレム、エルサレム。　預言者たちを殺し、神がこの都のために遣わされたすべての人を石で打ち殺す町よ。　わたしは、めんどりがひなを翼の下に集めるように、何度、あなたの子らを集めようとしたことでしょうか。　それなのに、あなたがたはそれを拒んでしまったのです。　38ですから、あなたがたの家は荒れ果てたまま見捨てられます。　39はつきり言うておきます。　神から遣わされた方を喜んで迎えるようになるまで、あなたがたは二度とわたしを見ることはありません。」

二四

この世の終わり

1　イエスが神殿の庭から出ようとしておられると、弟子たちが近寄って来て、「この神殿は、たいそう立派ですね」と言いました。

2　ところが、イエスは言われました。　「今、あなたがたが目を見張っているこれらの建物は、一つの石もほかの石の上に残らないほど、あとかたもなく壊されてしまいます。」

3　そのあとのことです。　イエスがオリーブ山の中腹に座っておられると、弟子たちが来てこっそり尋ねました。　「そんな恐ろしいことがいつ起こるのですか。　あなた様ももう一度おいでになる時や、この世の終わりには、どんな前兆があるのでしょうか。」

4　そこでイエスは、彼らに説明なさいました。　「だれにもだまされないようにしなさい。　5そのうち、自分こそキリストだと名乗る者が大ぜい現われて、多くの人を惑わすでしょう。　6また、あちらこちらで戦争が始まったといううわさが流れるでしょう。　だがそれは、わたしがもう一度来る時の前兆ではありません。　こういう現象は必ず起こりますが、それでもまだ、終わりが来たものではありません。　7民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、至る所でききんと地震が起こります。　8しかし、これらはみな、やがて起こる恐ろしい出来事のほんの始まりにすぎないのです。

9　その時、あなたがたは苦しめられ、殺されることもあるでしょう。また、わたしの弟子だというだけで、世界中の人から憎まれるでしょう。　10ですから、その時には多くの者が罪の生活に逆戻りし、互いに裏切り、憎み合います。　11また多くの偽預言者が現われ、大ぜいの人を惑わします。　12罪があらゆる所にはびこり、人々の愛は冷えきってしまいます。　13けれども、最後まで耐え忍ぶ者は救われるのです。

14　そして御国についてのすばらしい知らせが全世界に宣べ伝えられ、すべての国民がそれを耳にします。　それから、ほんとうの終わりが来るのです。

15　ですから、預言者ダニエルが語った、あの恐るべきものが聖所に立つのを見たなら〔読者よ、この意味をよく考えなさい〕、　16その時は、ユダヤにいる人たちは山に逃げなさい。　17屋上にいる人たちは家の中の物を持ち出そうと下に降りてはいけません。

18畑で野良仕事をしている人たちは着物を取りに戻ってはいけません。

19 このような日には、妊娠している女と乳飲み子をかかえている母親は、ほんとうに不幸です。 20あなたがたの逃げる日が、冬や安息日にならないように祈りなさい。 2

1 その時には、歴史上、類を見ないような大迫害が起こるからです。

22 もし、このような迫害の期間が短くされないなら、人類は一人残らず滅ぶでしょう。だが、神に選ばれた人たちのために、この期間は短くされるのです。

23 その時、『キリスト様がここにおられるぞ』とか、『あそこだ』『いや、ここだ』などと情報が乱れ飛んでも、そんなデマを信じてはいけません。 24それは、偽キリストや偽善者たちです。 彼らは不思議な奇蹟を行なって、できることなら、神に選ばれた者たちをさえ、惑わそうとするのです。 25いいですね。 よく警告しておきますよ。

26 ですから、だれかが、『メシヤ(救い主)がまたおいでになった。荒野におられるぞ』と知らせても、わざわざ見に出かけることはありません。 また、『メシヤはこれこれの所に隠れておられるぞ』と言っても、信じてはいけません。 27なぜなら、メシヤのわたしは、いなくとも東から西へひらめき渡るようにして、帰って来るからです。 28死体がある所には、はげたかが集まるものです。

29 これらの迫害が続いたすぐあとで、太陽は暗くなり、月は光を失い、星は天から落ち、宇宙に異変が起こります。

30 その時、わたしが来るという前兆が天に現われるのです。 地上のあらゆる国の人々は深い悲しみに包まれ、わたしが力とすばらしい栄光を帯びて、雲に乗って来るのを見ます。 31ラッパが高らかに鳴り響く中で、わたしは御使いたちを遣わします。 御使いたちは、天と地の果てから果てまで行き巡り、選ばれた者たちを集めるのです。

32 さあ、いちじくの木から教訓を学びなさい。 いちじくの葉が出てくれば、夏は間近です。 33同じように、このようなことが起こり始めたら、わたしは、もう戸口まで来ているのです。 34それらのことが全部起こってから、この時代は終わりになるのです。

35 天地は消え去りますが、わたしのことばは永遠に残ります。 36だが、その日、その時がいつであるかは、だれも知りません。 御使いばかりか、神の子さえも、知らないのです。 ただ父だけがご存じです。

37 38ちょうど、ノアの時代のように。 当時の人々は洪水が襲う直前まで、やれ宴会だ、パーティーだ、結婚式だと陽気にやっていました。 39何もかも押し流されてしまうまで、洪水のことなど信じようとしなかったのです。 わたしが来る時も、それと同じです。

40 その時、二人の人が野良仕事をしていると、一人は天に上げられ、一人はあとに残されます。 41家事をしている二人の婦人のうち、一人は天に上げられ、一人はその場に残されます。

42 主はいつ来られるか、わからないのだから、いつ来られてもいいように準備をしておきなさい。

4 3 寝ずの番をしていれば、どろぼうに入られることもありません。 4 4 同じように、日ごろの備えが万全であれば、わたしが何の前ぶれもなくやって来ても、少しも困ることはないはずです。

4 5 4 6 あなたがたは、主の、賢い忠実な召使として働いていますか。 あなたがたに、子供たちの食事の世話をし、家の中を管理する仕事を任せただけではありませんか。 わたしが帰って来た時、その仕事を忠実にやっているところを見られる人はしあわせです。 4 7 わたしはそのような忠実な人たちに、全財産を管理させるつもりです。

4 8 しかし、もし、あなたがたが悪い召使で、『主はまだ当分、帰って来ないだろう』と高をくくり、 4 9 仲間をいじめたり、宴会を開いて酒を飲んだりし始めたらどうでしょう。 5 0 主は何の前ぶれもなく、思いがけない時に帰って来て、この有様を見、 5 1 あなたがたを激しくむち打ち、偽善者たちと同じ目に合わせるでしょう。 あなたがたは泣きわめき、歯ぎしりしてくやしがるのです。

二五

再び天国のたとえ話

1 天国は、ランプを持って花婿を迎えに出た、十人の娘〔花嫁の付き添い〕の話でも説明できます。 2 - 4 そのうちの五人は賢く、ランプの油を十分用意していましたが、残りの五人は愚かで、うっかり忘れていました。

5 さて、花婿の到着が遅れたので、みな横になり寝入ってしまいました。 6 真夜中ごろ、ようやく、『花婿のお着き一つ。 迎えに出なさい』と叫ぶ声がします。

7 8 娘たちはとび起きると、めいめい自分のランプを整えました。 その時、油を用意していなかった五人の娘は、ランプが今にも消えそうなので、ほかの五人に油を分けてほしいと頼みました。

9 『ごめんなさい。 でも、分けてあげるほどはないの。 それよりもお店に行って、買って来たほうがいいんじゃないかしら。』

1 0 こう言われて、あわてて買いに行っているうちに、花婿が到着しました。 用意のできていた娘たちは、花婿といっしょに披露宴に行き、戸は閉じられました。

1 1 そのあとで、例の五人が帰って来て、『ご主人様一つ、戸を、戸を開けてください』と叫びました。

1 2 ところが主人は、『さっさと行ってしまえ。 もう遅すぎる!』と冷たく答えました。

1 3 こんなことにならないために、目を覚まして、いつでもわたしを迎える準備をしていなさい。 わたしが来るその日、その時が、いつかわからないのですから……。

1 4 天国はまた、他国へ出かけたある人の例で説明できます。 彼は出発前に、使用人たちを呼び、『さあ、元手をやるから、これで留守中に商売をしろ』と、それぞれにお金を預けました。

1 5 めいめいの能力に応じて、一人には百五十万円、ほかの一人には六十万円、もう一人には三十万円というふうに。 こうして、彼は旅に出ました。 1 6 百五十万円受け取

った男は、それを元手にさっそく商売を始め、じきに百五十万円もうけました。 17 六十万円受け取った男もすぐ仕事を始め、六十万円もうけました。

18 ところが、三十万円受け取った男は、地面に穴を掘ると、その中にお金を隠してしまいました。

19 だいぶ時がたち、主人が帰って来ました。 すぐに使用人たちが呼ばれ、清算が始まりました。 20 百五十万円預かった男は三百万円を差し出しました。

21 主人は彼の働きをほめました。 『おまえはわずかなお金を忠実に使ったな。 今度はもっと大きな責任のある仕事をやろう。 私といっしょに喜んでくれ。』

22 次に、六十万円受け取った男が来て、報告しました。 『ご主人様。 ごらんください。 あの六十万円を倍にしました。』

23 『よくやった。 おまえはやり手で、しかも忠実なやつだ。 わずかなお金を忠実に使ったから、次はもっとたくさんの仕事をやろう。』主人はこの男もほめてやりました。

24 25 最後に、三十万円受け取った男が進み出て、言いました。 『ご主人様。 あなた様はたいそうひどい方でございます。 私は前々から、それを存じ上げておりましたから、せっかくお金をもうけても、あなた様が横取りなさるのではないかと、こわくてしかたがなかったのです。 それで、あなた様のお金を土の中に隠しておきました。 はい、これがそのお金でございます。』

26 これを聞いて、主人は答えて言いました。 『なんという悪いやつだ！ なまけ者めが！ 私がおまえのもうけを取り上げるのが、わかっていたというのか。 27 だったら、せめて、そのお金を銀行にでも預金しておけばよかったのだ。 そうすりゃあ、利息がついたじゃないか。 28 さあ、こいつのお金を取り上げて、三百万円持っている者にやっつてしまえ。 29 与えられたものを上手に使う者にはもっと多くのものが与えられて、ますます豊かになる。 だが不忠実な者は、与えられたわずかなものさえ取り上げられてしまうのだ。 30 役立たずは、外の暗やみへ追い出してしまえ。 そこで、泣きわめくなり、歯ぎしりしてくやしがるなりするがいい。』

31 けれども、メシヤ（救い主）のわたしが、その栄光の輝きのうちに、すべての御使いと共にやって来る時、わたしは栄光の王座につきます。 32 そして、すべての国民がわたしの前に集められます。 その時わたしは、羊飼いが羊とやぎとを選別するように、人々を二組に分け、 33 羊はわたしの右側に、やぎを左側に置きます。

34 王として、わたしはまず、右側の人たちに言います。 『わたしの父に祝福された人たちよ。 さあ、この世の初めから、あなたがたのために用意されていた御国に入りなさい。 35 あなたがたは、わたしが空腹だった時に食べ物を与え、のどが渇いていた時に水を飲ませ、旅人だった時に家に招いてくれたからです。 36 それにまた、わたしが裸の時に服を与え、病気の時や、牢獄にいた時には見舞ってもくれました。』

37 すると、これらの正しい人たちは答えるでしょう。 『王様。 私たちがいったいいつ、あなた様に食べ物を差し上げたり、水を飲ませたりしたのでしょうか。 38 また、

いったいいつ、あなた様をお泊めしたり、服を差し上げたり、 39 お見舞いにかがったりしたでしょうか。』

40 『あなたがたが、だれでも困っている人に親切にしたのは、わたしにしたのと同じなのですよ。』

41 次に、左側にいる人たちに言います。 『のろわれた者たちよ。 さあ、悪魔とその手下の悪霊どものために用意されている、永遠に燃え続ける火の中に入りなさい！ 42 あなたがたは、わたしが空腹だった時にも食べ物をくれず、のどが渴いていた時にも水一滴恵もうとはせず、 43 旅人だった時にも、もてなそうとはしませんでした。 またわたしが裸の時にも着物一枚くれるわけではなく、病気の時にも、牢獄にいた時にも知らん顔をしていたではありませんか。』

44 すると彼らは、こんなふうに抗議するでしょう。 『王様。 私たちがいったいいつ、あなた様が空腹だったり、のどが渴いていたり、旅人だったり、裸だったり、病気だったり、牢獄におられたりするのを見て、お世話しなかったとおっしゃるのですか。』

45 そこで、わたしはこう言います。 『あなたがたが、これらの一番小さい者たちを助けようとしなかったのは、わたしを助けなかったのと同じです。』

46 こうして、この人たちは永遠の刑罰を受け、一方、正しい人たちには永遠のいのちが与えられるのです。」

二六

ユダの裏切り

1 イエスはこれらのことを話し終えると、弟子たちに言われました。

2 「あなたがたも知っているように、あと二日で過越の祭りが始まります。 いよいよ、わたしが裏切られ、十字架につけられる時が近づいたのです。」

3 ちょうどそのころ、大祭司カヤパの家では、祭司长やユダヤ人の指導者たちが集まり、4 イエスをひそかに捕らえて殺そうという相談のまっ最中でした。 5 しかし、「祭りの間は見合わせたほうがいいだろうな。 群衆の暴動でも起きたら、それこそ大変だから」というのが、彼らの一致した意見でした。

6 さて、イエスはベタニヤへ行き、らい病人シモンの家にお入りになりました。 7 そこで食事をしておられると、非常に高価な香油のつぼを持った女が入って来て、その香油をイエスの頭に注ぎかけました。

8 それを見た弟子たちは、腹を立てました。 「なんてもったいないことを！ 9 売ればひと財産にもなって、貧しい人たちに恵むこともできたのに。」

10 イエスはこれを聞いて言われました。 「なぜ、そうとやかく言うのですか。 この女はわたしのために、とてもよいことをしてくれたのです。 11 いいですか。 貧しい人たちならいつも回りにいますが、わたしはそうではありません。 12 今、この女が香油を注いでくれたのは、わたしの葬りの準備なのです。 13 ですから、よく言っておきますが、この女のことは、いつまでも忘れられないでしょう。 そして御国のすばらし

い知らせが伝えられる所ならどこでも、この女のしたことも語り継がれるでしょう。」

1415 このことがあってから、十二弟子の一人、イスカリオテのユダは祭司長たちのところへ、「あのイエスをあなたがたに売り渡したら、いったい、いくらいただけるんですか」と聞きに行きました。こうして、とうとう彼らから銀貨三十枚を受け取ったのです。16 この時から、ユダはイエスを売り渡そうと機会をねらい始めました。

17 過越の祭りの日、すなわちイースト菌を入れないパンの祭りの最初の日に、弟子たちが来て、イエスに尋ねました。「先生。過越の食事は、どこですればよろしいでしょうか。」

18 「町に入って行くと、これこれの人に会います。その人に言いなさい。『私どもの先生が「わたしの時が近づいた。お宅で弟子たちといっしょに過越の食事をしたいのだが」と申しております。』」19 弟子たちはイエスの言われたとおりに事を運び、夕食の用意をしました。

20 その夕方、十二弟子といっしょに食事をしている時、21 イエスは、「あなたがたのうちの一人が、わたしを裏切ろうとしています」と言われました。

22 これを聞いた弟子たちはひどく心を痛め、口々に「まさか、私じゃないでしょうね」と尋ねました。

23 「わたしといっしょに鉢に手を浸している者が、裏切るのです。24 わたしは預言のとおり、死ななければなりません。だが、わたしを裏切る者はのろわれます。その人は、むしろ生まれなかったほうがよかったです。」

25 ユダも、何げないふりをして尋ねました。「先生。まさか、私じゃないでしょうね。」

「いや、あなたです。」イエスはお答えになりました。

26 食事の最中に、イエスは一かたまりのパンを取り、祝福してから、それをちぎって弟子たちに分け与えました。「これを取って食べなさい。わたしの体です。」

27 またぶどう酒の杯を取り、感謝の祈りをささげてから、弟子たちに与えて言われました。「皆この杯から飲みなさい。28 これは新しい契約を保証するわたしの血、多くの人の罪を赦すために流される血です。29 よく言っておきますが、やがて父の御国で、あなたがたといっしょに新しく飲む日まで、わたしは二度と、このぶどう酒を飲みません。」

30 このあと、一同は賛美歌をうたうと、そこを出て、オリーブ山に向かいました。

31 その時、イエスは弟子たちに言われました。「今夜あなたがたはみな、わたしを見捨てて逃げるでしょう。聖書(旧約)に、『わたしが羊飼いを打つ。すると羊の群れは散り散りになる』と書いてあるから……。32 だが、わたしは復活して、もう一度ガリラヤに行きます。そこであなたがたに会います。」

33 「たとい、みんながあなた様を見捨てようと、私だけは、この私だけは絶対に、見捨てなどいたしません」と叫ぶペテロに、34 イエスは言われました。「はっきり言い

ましよう。 あなたは今夜鶏が鳴く前に、三度、わたしを知らないと言います。」

35 しかしペテロは、「死んでも、あなた様を知らないなどとは申しません」と言いはり、ほかの弟子たちも、口々に同じことを言いました。

苦しみ祈るイエス

36 それからイエスは、弟子たちを連れて、木の茂ったゲツセマネの園に行かれました。そして弟子たちに、「わたしが向こうで祈っている間、ここに座って待っていなさい」と言い残し、37 ペテロと、ゼバダイの子ヤコブとヨハネだけを連れて、さらに奥のほうへ行かれました。その時です。激しい苦痛と絶望がイエスを襲い、苦しみもだえ始められました。

38 「ああ、恐れと悲しみのあまり、今にも死にそうです。ここを離れずに、わたしといっしょに目を覚ましていなさい。」

39 三人にこう頼むと、イエスは少し離れた所に行き、地面にひれ伏して必死に祈られました。「父よ。もし、もしできることなら、この杯を取り除いてください。しかし、わたしの思いどおりにではなく、あなたのお心のままになさってください！」

40 それから、弟子たちのところへ戻って来られると、なんと、三人ともぐっすり眠り込んでいるではありませんか。そこで、ペテロを呼び起こされました。「起きなさい、ペテロ。たったの一時間も、わたしといっしょに目を覚ましていられなかったのですか。」

41 油断しないで、いつも祈っていなさい。さもないと誘惑に負けてしまいます。あなたがたの心は燃えていても、肉体はとても弱いのですから。」

42 こうしてまた、彼らから離れて、祈られました。「父よ。もし、この杯を飲みほさなければならぬのでしたら、どうぞ、あなたのお心のままになさってください！」

43 イエスがもう一度戻って来られると、三人はまたもや眠り込んでいます。まぶたが重くなって、どうしても起きていられなかったのです。44 イエスは、三度目の祈りをするために戻り、前と同じ祈りをなさいました。

45 それからまた、弟子たちのところに来て、「まだ眠っているのですか！目を覚まさない。時が来ました。いよいよ、わたしは悪い人たちに売り渡されるのです。46 立ちなさい。さあ、行くのです。ごらんなさい、裏切り者が近づいて来ます」と言われました。

47 イエスがまだ言い終わらないうちに、十二弟子の一人ユダがやって来ました。彼といっしょに、ユダヤ人の指導者たちが差し向けた大ぜいの群衆も、手に手に剣やこん棒を持って向かって来ます。48 彼らの間では、ユダがあいさつする相手こそイエスだから、そいつを逮捕するようにと、前もって打ち合わせがしてありました。49 それで、ユダはまっすぐイエスのほうへ歩み寄り、「先生。こんばんは」と声をかけ、さも親しげにイエスを抱きしめました。

50 イエスが「ユダよ。さあ、おまえのしようとしていることを、しなさい」と言われたその瞬間、人々ははてんで飛びかかり、イエスを捕らえました。

5 1 その時、イエスといっしょにいた一人が、さっと剣を抜き放つと、大祭司の部下の耳を切り落としました。

5 2 ところが、イエスは彼を制せられたのです。「剣をさやに納めなさい。剣を使う者は、自分もまた剣で殺されるのです。5 3 わからないのですか。わたしが願いさえすれば、父が何万という御使いを送って、わたしを守ってくださるのです。5 4 しかし、もし今そんなことをしたら、こうなると書いてある聖書（旧約）のことばが実現しないではありませんか。」

5 5 そして今度は、群衆に向かって言われました。「剣やこん棒で、これほどものものしく武装しなければならぬほど、わたしは凶悪犯なのでしょうか！ わたしが毎日神殿で教えていた時には、手出しもできなかったではありませんか。5 6 だがいいですか、こうなったのはすべて、預言者たちのことばが実現するためなのです。」

もうこの時には、弟子たちはみな、イエスを見捨てて逃げ去っていました。

5 7 暴徒どもは、イエスを大祭司カヤパの家に引っ立てました。ちょうど、ユダヤ人の指導者たちが、一堂に集まり、今や遅しと待ちかまえているところでした。5 8 一方、ペテロは遠くからあとをつけて行き、大祭司の家の中庭にもぐり込みました。そして兵士たちにまじって、イエスがどんなことになるのか見届けようとなりました。

5 9 そこには、祭司長たちやユダヤの最高議会の全議員が集まり、なんとかイエスを死刑にしようと、偽証する者を捜し回っていました。

6 0 ところが、偽証した者は多かったのですが、その証言がみな食い違っているのです。そうこうするうちに、やっとのことで、格好の証人が現われました。二人の男が進み出て、6 1 「こいつは、『神殿を打ちこわして、三日の間に建て直すことができる』と言っていました」と、証言したのです。

6 2 大祭司はここぞとばかりに立ち上がり、イエスに問いました。「さあ、黙っていないで答えたらどうだ。ほんとうにそんな大それたことを言ったのか。それとも言わなかったのか。」6 3 それでもなお、イエスは黙っておられます。大祭司は続けました。「生ける神の御名によって命じる。おまえは神の子キリストなのかどうか。さあ、はっきり答えてみろ。」

6 4 イエスはお答えになりました。「そのとおり、わたしがキリストです。あなたがたは、やがてメシヤ（救い主）のわたしが、神の右の座につき、雲に乗って来るのを見るでしょう。」

6 5 これを聞いた大祭司は、即座に着物を引き裂き、大声で叫びました。「冒涇だ！ 神を汚すことばだ！ これだけ聞けば十分だ。さあ、みんなも聞いたとおりだ。6 6 この男をどうしよう。」

一同はいっせいに叫びました。「死刑だ、死刑だ、死刑にしろっ！」

6 7 そうして、イエスの顔につばきをかけたり、げんこつでなぐったりしました。中には、平手打ちを食らわせて、6 8 「おい、キリストだってなあ。当ててみろよ。今

おまえさんを打ったのはどこのどいつだい」とからかう者もいました。

ペテロの大失敗

69 一方、ペテロは中庭に座っていましたが、一人の女中がやって来て、「あら、あんたイエスといっしょにいた人じゃないの。二人ともガリラヤの人でしょう」と話しかけました。

70 ところがペテロは、「人違いだ。変な言いがかりはよしてくれ」と大声で否定しました。

71 まずいことになったと、急いで出口のほうへ行きかけると、また別の女中に見つかりました。女中は回りの人たちに、「ねえねえ、この人もナザレから来たイエスという人といっしょだったわよ」と言いふらすではありませんか。

72 ペテロはあわててそれを打ち消し、その上、「断じて、そんな男は知るもんか」と誓いました。

73 ところが、しばらくすると、近くにいた人たちが彼のところへ来て、口々に言い始めました。「いやーっ、おまえは確かにあの男の弟子の一人だぞ。隠してもむださ。そのガリラヤなまりが何よりの証拠だからな。」

74 たじたじとなったペテロは「そんな男のことなんか、絶対に知るもんか。これがうそなら、どんな罰があたっててもかまわないぞ」と言いました。

するとどうでしょう。すぐに、鶏の鳴く声が聞こえました。75 その瞬間、ペテロは、はっとわれに返りました。「鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うでしょう」と言われたイエスのことばを思い出したからです。ペテロは外へ駆け出して行くと、胸も張り裂けんばかりに激しく泣きました。

二七

イエスの裁判と十字架の死

1 さて、朝になりました。祭司長とユダヤ人の指導者たちはまた集まり、どうやってローマ政府にイエスの死刑を承認させようかと、あれこれ策を練りました。2 それから、縛ったまま、イエスをローマ総督ピラトに引き渡しました。

3 ところで、裏切り者のユダは、どうなったでしょう。イエスに死刑の判決が下されると聞いてはじめて、彼は自分のしたことがどんなに大それたことか気づき、深く後悔しました。祭司長やユダヤ人の指導者たちのところに銀貨三十枚を返しに行き、4 「私はとんでもない罪を犯してしまった。なんてことだ。罪のない人を裏切ったりして…」と言いました。

しかし祭司長たちは、「今さらわたらの知ったことか。かつてにしろ」と突っぱね、取り合おうともしません。

5 それでユダは、神殿の床に銀貨を投げ込み、出て行って首をくくって死んでしまいました。6 祭司長たちはその銀貨を拾い上げてつぶやきました。「まさか、これを神殿の金庫に入れるわけにもいくまい。人を殺すために使った金を納めるなど、おきてに反

することだからなあ……。」

7 相談の結果、そのお金で、陶器師が粘土を取っていた畑を買い上げ、そこをエルサレムで死んだ外国人の墓地とすることに決まりました。 8そこでこの墓地は、今でも「血の畑」と呼ばれています。

9 10こうして、エレミヤの預言のとおりになったのです。 「彼らは銀貨三十枚を取った。 それは、イスラエルの人々がその人を見積った値段だ。 彼らは、主が私に命じられたように、それで陶器師の畑を買った。」

11 さてイエスは、ローマ総督ピラトの前に立たれました。 総督はイエスを尋問しました。 「おまえはユダヤ人の王なのか。」 イエスは「そのとおりです」とお答えになりました。

12 しかし、祭司長とユダヤ人の指導者たちからいろいろな訴えが出されている時には、口をつぐんで、何もお答えになりませんでした。 13それでピラトは、「おまえにあれほど不利な証言をしているのが、聞こえんのか」と尋ねました。

14 それでもイエスは何もお答えになりません。 これには総督も、驚きあきれてしまいました。

15 ところで、毎年、過越の祭りの間に、ユダヤ人たちが希望する囚人の一人に、総督が恩赦を与える習慣がありました。 16当時、獄中には、バラバという悪名高い男が捕らえられていました。 17それで、その朝、群衆が官邸に詰めかけた時、ピラトは尋ねました。 「さあ、いったいどちらを釈放してほしいのか。 バラバか、それともキリストと呼ばれるイエスか。」 18こう言ったのは、イエスが捕らえられたのは、イエスの人気をねたむユダヤ人の指導者たちの陰謀にすぎない、とにらんだからです。

19 裁判のまっ最中に、ピラトのところへ夫人が、「どうぞ、その正しい方に手をお出しになりませんように。 ゆうべ、その人のことで恐ろしい夢を見ましたから」と言ってよこしました。

20 ところが、祭司長とユダヤ人の役人たちは、バラバを釈放し、イエスの死刑を要求するように、群衆をたきつけました。 21それで、ピラトがもう一度、「二人のうち、どちらを釈放してほしいのか」と尋ねると、群衆は即座に、「バラバを！」と大声で叫んだのでした。

22 「では、キリストと呼ばれるあのイエスは、どうするのだ。」

「十字架につけろっ！」

23 「どうしてか。 ええっ。 あの男がいったいどんな悪事を働いたというのだ。」ピラトがむきになって尋ねても、人々は「十字架だっ！ 十字架につけろっ！」と叫び続けるばかりです。

24 どうにも手のつけようがありません。 暴動になる恐れさえ出てきました。 あきらめたピラトは、水を入れた鉢を持って来させ、群衆の面前で手を洗い、「この正しい人の血について、私には何の責任もない。 責任は全部おまえたちが負え」と言いました。

25 すると群衆は大声で、「かまうもんか。責任はおれたちが負ってやらあ。子供らの上にふりかかってもいいぜ」とわめき立てるのでした。

26 ピラトはやむなくバラバを釈放し、イエスのほうは、むち打ってから、十字架につけるためにローマ兵に引き渡しました。27 兵士たちはまず、イエスを兵営に連れて行き、全部隊を召集すると、28 イエスの着物をはぎとって赤いガウンを着せ、29 長いとげのいばらで作った冠を頭に載せ、右手には、王の笏に見立てた葦の棒を持たせました。それから、拝むまねをして、「これはこれは、ユダヤ人の王様ですか。ばんざーいっ！」とはやし立てました。30 また、つばきをかけたり、葦の棒をひったくって頭をたたいたりしました。

31 こうしてさんざんからかったあげく、赤いガウンを脱がせ、もとの服を着せると、いよいよ十字架につけるために引立てて行きました。32 刑場に行く途中、通りすがりの男にむりやりイエスの十字架を背負わせました。クレネから来合わせていたシモンという男でした。33 ついに、ゴルゴタ、すなわち「がいこつの丘」という名で知られる場所に着きました。34 兵士たちはそこで、薬用のぶどう酒を飲ませようとしたのですが、イエスはちょっと口をつけただけで、飲もうとはなさいませんでした。

35 イエスを十字架につけ終わると、兵士たちはさいころを投げてイエスの着物を分け合いました。36 それがすむと、今度はその場に座り込んで見張り番です。37 またイエスの頭上には、「この者はユダヤ人の王イエスである」と書いた罪状書きを打ちつけました。

38 その朝、強盗が二人、それぞれイエスの右と左で十字架につけられました。39 刑場のそばを通りかかった人々は、大げさな身ぶりをしながら、口ぎたなくイエスをののしりました。40 「やーい。神殿を打ちこわして、三日のうちに建て直せるんだってなあ！ へん、おまえが神の子だって？ なら、十字架から降りてみろよ。」

41 祭司长やユダヤ人の指導者たちも、イエスをあざけりました。42 「ふん、他人は救えるが自分は救えないというわけか。イスラエルの王が聞いてあきれられるわ。さあ、十字架から降りて来い！ そうしたら信じてやろうじゃないか。43 おまえは神様に頼ってるんだろうが。神様のお気に入りなら、せいぜい助けていただくがいい。なにしろ、自分を神の子だと言ってたんだからな。」

44 強盗までがいっしょになって、悪口をあびせました。

45 さて時間がたち、正午にもなったのでしょうか、急にあたりが暗くなり、一面のやみにおおわれました。それが、なんと三時間も続いたのです。

46 三時ごろ、イエスは大声で、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と叫ばれました。それは「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味です。

47 近くで、その声を聞いた人の中には、「あれはエリヤを呼んでいるのだ」と思う者もいました。48 一人の男がさっと駆け寄り、海綿に酸っぱいぶどう酒を含ませると、それを葦の棒につけて差し出しました。49 ところが、ほかの者たちは、「放っておけよ。」

エリヤが救いに来るかどうか、とくと拝見しようじゃないか」と言うだけでした。

50 その時、イエスはもう一度大声で叫んで、息を引き取られました。 51するとどうでしょう。 神殿の至聖所を仕切っていた幕が、上から下まで真っ二つに裂けたのです。大地は揺れ動き、岩はくずれました。 52さらに墓が開いて、生前神を敬う生活を送った人たちが、大ぜい生き返りました。 53彼らはイエスが復活されたあと、墓を出てエルサレムに入り、多くの人の前に姿を現わしたのです。

54 十字架のそばにいた隊長や兵士たちは、このすさまじい地震やいろいろの出来事を見て震え上がり、「ああ、この人はほんとうに神の子だった！」と叫びました。

55 イエスの世話をするためにガリラヤからついて来た、大ぜいの婦人たちも、遠くからこの様子を見ていました。 56マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセフの母マリヤ、ゼベダイの息子のヤコブとヨハネとの母などです。

イエスの埋葬

57 夕方になりました。 イエスの弟子で、アリマタヤ出身のヨセフという金持ちが来て、 58ピラトに、イエスの遺体を引き取りたいと願い出ました。 ピラトは願いを聞き入れ、遺体を渡すように命じました。 59ヨセフは遺体を取り降ろすと、きれいな亜麻布でくるみ、 60岩をくり抜いた、自分の新しい墓に納めました。 そして、大きな石を転がして入口をふさぎ、帰って行きました。 61この有様を、マグダラのマリヤともう一人のマリヤが、近くに座って見ていました。 62 63翌日の安息日に、祭司長やパリサイ人たちがピラトに願い出ました。「総督閣下。 あの大王そつきめは、確か、『わたしは三日後に復活する』……とか何とかぬかしていました。 64それをいいことに、弟子どもが死体を盗み出し、イエスは復活したと言いふらしては、まずいことになりかねません。 それこそ、今どころの騒ぎではすみません。 大混乱になるかもしれません。ですからどうぞ、墓を三日目まで封印するように命令を出してください。」

65 ピラトは答えました。「よろしい。 では神殿警備員に、厳重に見張らせるがよい。」

66 そこで彼らは、石に封印をし、警備員をおいて、だれも忍び込めないようにしました。

二八

イエスは復活した！

1 安息日も終わり、日曜日になりました。 マグダラのマリヤともう一人のマリヤは、明け方早く、墓へ出かけました。

2 突然、大きな地震が起きました。 主の使いが天から下って来て、墓の入口から石を転がし、その上に座ったからです。 3御使いの顔はいなずまのように輝き、着物はまばゆいほどの白さでした。 4警備員たちはその姿を見て震え上がり、まるで死人のようになって、へなへたと座り込んでしまいました。

5 すると、御使いがマリヤたちに声をかけました。「こわがらなくてもいいのです。

十字架につけられたイエス様を捜していることはわかっています。 6 だがもう、イエス様はここにはおられません。 前から話していたように復活されたのです。 中に入って、遺体の置いてあった所を見てごらんなさい……。 7 さあ早く行って、弟子たちに、イエス様が死人の中から復活されたこと、ガリラヤへ行けば、そこでお会いできることを知らせてあげなさい。 わかりましたね。」

8 二人は、恐ろしさに震えながらも、一方ではあふれる喜びを抑えることができませんでした。 一刻も早くこのことを弟子たちに伝えようと、一目散に駆けだしました。 9 すると、そこへ突然イエスがお姿を現わされ、目の前にお立ちになり、「おはよう」とあいさつなさいました。 二人はイエスの前にひれ伏し、御足を抱いて礼拝しました。

10 イエスは言われました。「こわがらなくてもいいのですよ。 行って、わたしの兄弟たちに、すぐガリラヤへ行くように言いなさい。 そこでわたしに会えるのです。」

11 二人が町へ急いでいるころ、墓の番をしていた警備員たちは祭司長たちのところに駆け込み、一部始終を報告しました。

12 13 ユダヤ人の指導者が全員召集され、善後策が講じられました。 その結果、警備員たちにお金をつかませて、夜、眠っている間に、イエスの弟子たちが死体を盗んでいった、と言わせることにしました。

14 「もしこのことが総督閣下の耳に入ったとしても、うまく説得してやるから心配ない。 おまえたちには決して迷惑はかけない。」彼らはこう約束しました。

15 賄賂を受け取った警備員たちは、言われたとおりに話しました。そのため、この話は広くユダヤ人の間に行き渡り、今でも、彼らはそう信じているのです。

16 一方、十一人の弟子はガリラヤに出かけ、イエスから指示された山に登りました。

17 そこでイエスにお会いして礼拝しましたが、中には、ほんとうにイエスだと信じない者もいました。

18 イエスは弟子たちに言われました。「わたしには天と地のすべての権威が与えられています。 19 だから、出て行って、すべての国の人々をわたしの弟子とし、彼らに、父と子と聖霊との名によってバプテスマ（洗礼）を授けなさい。 20 また、新しく弟子となった者たちには、あなたがたに命じておいたすべての戒めを守るように教えなさい。 わたしはこの世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいるのです。」

▪